

0001 病因・病態 > 細胞障害・循環障害・代謝障害 | 難易度：基礎

低酸素によりATP産生が低下した細胞で、早期の可逆性障害として最も生じやすい変化はどれか。

- ア．細胞膜の広範な破綻と内容物の流出
- イ．核の断片化と細胞の融解
- ウ．組織全体の線維化
- エ．Na⁺/K⁺ポンプ機能低下に伴う細胞腫脹

答え・解説 正答：エ

- ア：膜の不可逆的破綻と内容物流出は壊死に伴う不可逆性障害を示す。
- イ：核崩壊や細胞融解は不可逆性細胞死でみられる。
- ウ：線維化は慢性障害後の修復過程であり、早期の可逆性細胞障害そのものではない。
- エ：ATP低下ではエネルギー依存性イオンポンプが障害され、Na⁺と水が細胞内に入り細胞腫脹が起こる。

総合解説：ATP低下ではエネルギー依存性イオンポンプが障害され、Na⁺と水が細胞内に入り細胞腫脹が起こる。可逆性障害では原因除去で回復可能であり、膜の完全破綻は不可逆性障害を示唆する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0002 病因・病態 > 細胞障害・循環障害・代謝障害 | 難易度：基礎

壊死とアポトーシスの比較として正しいのはどれか。

- ア．壊死では細胞膜破綻により細胞内容物が漏出し、周囲に炎症を起こしやすい。
- イ．アポトーシスは常に強い炎症反応を伴う。
- ウ．壊死は生理的な細胞数調節の主要機構である。
- エ．アポトーシスでは細胞膜が早期に破裂して内容物が流出する。

答え・解説 正答：ア

- ア：壊死は不可逆性障害に伴う細胞死で、膜破綻と細胞内容物流出により炎症を誘発しやすい。
- イ：アポトーシスは一般に強い炎症を伴いにくい。
- ウ：生理的な細胞数調節ではアポトーシスが重要である。
- エ：早期の膜破裂と内容物流出は壊死の特徴である。

総合解説：壊死は不可逆性障害に伴う細胞死で、膜破綻と細胞内容物流出により炎症を誘発しやすい。「膜破綻と炎症」は壊死、「制御された細胞死」はアポトーシスという対比が基本である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0003 病因・病態 > 細胞障害・循環障害・代謝障害 | 難易度：基礎

虚血性心筋梗塞で典型的にみられる壊死の型はどれか。

- ア．融解壊死
- イ．乾酪壊死
- ウ．凝固壊死
- エ．脂肪壊死

答え・解説 正答：ウ

ア：融解壊死は膿瘍や脳の虚血性障害で代表的にみられる。
イ：乾酪壊死は結核などの肉芽腫性炎症で典型的である。
ウ：心筋など脳以外の多くの実質臓器では、虚血性障害により凝固壊死を呈する。
エ：脂肪壊死は急性膵炎などでみられる。

総合解説：心筋など脳以外の多くの実質臓器では、虚血性障害により凝固壊死を呈する。虚血性壊死でも、脳では融解壊死になりやすい点を区別する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0004 病因・病態 > 細胞障害・循環障害・代謝障害 | 難易度：標準

脳梗塞後、壊死組織が酵素的に消化され液状化している。最も適切な壊死の型はどれか。

- ア．凝固壊死
- イ．融解壊死
- ウ．線維素様壊死
- エ．異栄養性石灰化

答え・解説 正答：イ

ア：凝固壊死では組織構築がしばらく保たれやすく、脳梗塞の典型ではない。
イ：脳の虚血では、死細胞が加水分解酵素で消化される融解壊死が典型的である。
ウ：線維素様壊死は血管壁の免疫学的障害などでみられる。
エ：異栄養性石灰化は壊死型ではなく、障害組織へのカルシウム塩沈着である。

総合解説：脳の虚血では、死細胞が加水分解酵素で消化される融解壊死が典型的である。膿瘍と脳虚血は融解壊死の代表である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0005 病因・病態 > 細胞障害・循環障害・代謝障害 | 難易度：標準

低アルブミン血症が全身性浮腫を起こす主な機序はどれか。

- ア．毛細血管静水圧が低下して間質への濾過が増える。
- イ．血漿膠質浸透圧が低下し、血管内に水分を保持しにくくなる。
- ウ．リンパ流が増加して間質液が蓄積する。
- エ．赤血球数が増加して水分が間質へ押し出される。

答え・解説 正答：イ

- ア：静水圧低下は一般に濾過を増やす方向ではない。
- イ：アルブミンは血漿膠質浸透圧を支える主要蛋白で、低下すると血管内への水分保持力が弱くなる。
- ウ：リンパ流増加は通常、間質液除去を助ける。
- エ：低アルブミン血症による浮腫の主因ではない。

総合解説：アルブミンは血漿膠質浸透圧を支える主要蛋白で、低下すると血管内への水分保持力が弱くなる。浮腫は静水圧上昇、膠質浸透圧低下、透過性亢進、リンパ障害などで生じる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0006 病因・病態 > 細胞障害・循環障害・代謝障害 | 難易度：標準

血栓形成を促すVirchow三徴に含まれないのはどれか。

- ア．血管内皮障害
- イ．血流の停滞または乱流
- ウ．血液の過凝固状態
- エ．血漿膠質浸透圧の上昇

答え・解説 正答：エ

- ア：内皮障害はVirchow三徴の一つである。
- イ：血流異常はVirchow三徴の一つである。
- ウ：過凝固状態はVirchow三徴の一つである。
- エ：Virchow三徴は内皮障害、血流異常、過凝固である。

総合解説：Virchow三徴は内皮障害、血流異常、過凝固である。血栓リスクは「血管壁・血流・凝固性」の3方向で整理する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0007 病因・病態 > 細胞障害・循環障害・代謝障害 | 難易度：標準

塞栓の説明として最も適切なのはどれか。

- ア．血管内でその場に固定して形成された血液凝塊だけを指す。
- イ．血流に乗って移動した物質が遠隔部の血管を閉塞する現象である。
- ウ．組織間隙に水分が過剰にたまる現象である。
- エ．血管壁の石灰化のみを指す。

答え・解説 正答：イ

- ア：その場で形成された血液凝塊は血栓である。
- イ：塞栓は血栓片などが血流で運ばれ、離れた部位の血管を閉塞する病態である。
- ウ：これは浮腫である。
- エ：石灰化は塞栓の定義ではない。

総合解説：塞栓は血栓片などが血流で運ばれ、離れた部位の血管を閉塞する病態である。血栓は形成場所、塞栓は移動と遠隔閉塞という違いで整理する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0008 病因・病態 > 細胞障害・循環障害・代謝障害 | 難易度：標準

梗塞の病理学的な説明として最も適切なのはどれか。

- ア．感染による膿瘍形成だけを意味する。
- イ．動脈流入または静脈流出の障害により生じる局所組織の虚血性壊死である。
- ウ．血漿蛋白低下による全身性浮腫を意味する。
- エ．細胞が生理的に計画されて消失する現象を意味する。

答え・解説 正答：イ

- ア：膿瘍は限局性化膿性炎症で、梗塞とは異なる。
- イ：梗塞は血流遮断による虚血性壊死で、血栓・塞栓などが原因になり得る。
- ウ：これは浮腫の一機序である。
- エ：これはアポトーシスである。

総合解説：梗塞は血流遮断による虚血性壊死で、血栓・塞栓などが原因になり得る。循環障害では「閉塞→虚血→壊死」という因果関係を理解する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0009 病因・病態 > 細胞障害・循環障害・代謝障害 | 難易度：応用

大量飲酒を背景に肝細胞内へ中性脂肪が蓄積している。病変の説明として最も適切なものはどれか。

- ア．必ず悪性腫瘍への転化を意味する。
- イ．脂肪変性であり、原因が除かれれば可逆的な場合がある。
- ウ．細胞膜破綻を伴う壊死と同義である。
- エ．血管内に形成された血栓である。

答え・解説 正答：イ

- ア：脂肪変性それ自体は悪性腫瘍への転化を意味しない。
- イ：肝細胞への脂質蓄積は脂肪変性の代表で、初期には可逆性細胞障害としてみられることがある。
- ウ：脂肪変性は細胞内代謝異常で、壊死と同義ではない。
- エ：脂肪変性は血栓形成ではない。

総合解説：肝細胞への脂質蓄積は脂肪変性の代表で、初期には可逆性細胞障害としてみられることがある。変性と壊死を区別し、可逆性の有無を判断する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0010 病因・病態 > 細胞障害・循環障害・代謝障害 | 難易度：応用

異栄養性石灰化について正しいのはどれか。

- ア．正常組織にのみ生じ、必ず高カルシウム血症を伴う。
- イ．カルシウム塩ではなく尿酸結晶の沈着を指す。
- ウ．生理的な骨形成と同じ現象である。
- エ．壊死・障害組織にカルシウム塩が沈着し、血清カルシウム値が正常でも起こり得る。

答え・解説 正答：エ

- ア：これは転移性石灰化の説明に近い。
- イ：尿酸結晶沈着は痛風などでみられる。
- ウ：病的組織への石灰沈着であり、正常な骨形成とは区別される。
- エ：異栄養性石灰化は障害・壊死組織に起こり、全身のカルシウム代謝異常を必須としない。

総合解説：異栄養性石灰化は障害・壊死組織に起こり、全身のカルシウム代謝異常を必須としない。異栄養性＝傷んだ組織、転移性＝高Ca・高Pなど全身性代謝異常、という対比が重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0011 病因・病態 > 炎症・修復 | 難易度：基礎

古典的な炎症の五徴候に含まれないのはどれか。

- ア．発赤
- イ．腫脹
- ウ．疼痛
- エ．蒼白

答え・解説 正答：エ

ア：発赤は古典的徴候の一つである。
イ：腫脹は古典的徴候の一つである。
ウ：疼痛は古典的徴候の一つである。
エ：炎症の五徴候は発赤、熱感、腫脹、疼痛、機能障害である。

総合解説：炎症の五徴候は発赤、熱感、腫脹、疼痛、機能障害である。血管拡張と透過性亢進が発赤・熱感・腫脹の基盤となる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0012 病因・病態 > 炎症・修復 | 難易度：基礎

細菌感染による急性炎症の初期に、一般に優位となる炎症細胞はどれか。

- ア．形質細胞
- イ．線維芽細胞
- ウ．好中球
- エ．骨芽細胞

答え・解説 正答：ウ

ア：形質細胞は抗体産生を担い、慢性炎症などでみられる。
イ：線維芽細胞は修復・線維化に重要である。
ウ：急性炎症、とくに細菌感染の初期では好中球が主要な浸潤細胞となる。
エ：骨芽細胞は骨形成細胞である。

総合解説：急性炎症、とくに細菌感染の初期では好中球が主要な浸潤細胞となる。急性＝好中球、慢性＝マクロファージ・リンパ球という大枠を押さえる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0013 病因・病態 > 炎症・修復 | 難易度：基礎

慢性炎症で一般に重要な細胞の組合せはどれか。

- ア．赤血球と血小板
- イ．骨芽細胞と破骨細胞
- ウ．マクロファージとリンパ球
- エ．好塩基球と赤血球

答え・解説 正答：ウ

- ア：赤血球と血小板は慢性炎症の主要炎症細胞ではない。
- イ：骨代謝には関与するが慢性炎症一般の主要細胞ではない。
- ウ：慢性炎症ではマクロファージ、リンパ球、形質細胞などの単核球系細胞が重要となる。
- エ：慢性炎症を代表する組合せではない。

総合解説：慢性炎症ではマクロファージ、リンパ球、形質細胞などの単核球系細胞が重要となる。炎症の時間経過と細胞構成を結び付けて理解する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0014 病因・病態 > 炎症・修復 | 難易度：標準

急性炎症でヒスタミンがもたらす変化として最も適切なのはどれか。

- ア．血小板産生の長期的抑制
- イ．血管拡張と血管透過性亢進
- ウ．コラーゲン成熟の促進
- エ．赤血球の核分裂促進

答え・解説 正答：イ

- ア：ヒスタミンの主要な急性炎症作用ではない。
- イ：ヒスタミンは急性炎症初期に血管拡張や血管透過性亢進を促し、発赤や浮腫に関与する。
- ウ：コラーゲン成熟は修復・リモデリング過程である。
- エ：成熟赤血球は核を持たず、ヒスタミンの作用とも無関係である。

総合解説：ヒスタミンは急性炎症初期に血管拡張や血管透過性亢進を促し、発赤や浮腫に関与する。炎症メディエーターの作用を血管反応と細胞反応に分けて整理する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0015 病因・病態 > 炎症・修復 | 難易度：標準

炎症における化学走性の説明として正しいのはどれか。

- ア．白血球が化学物質の濃度勾配に沿って炎症部位へ移動する現象である。
- イ．血漿蛋白が血管内で凝固して血栓になる現象である。
- ウ．赤血球が酸素分圧の高い方向へ能動移動する現象である。
- エ．線維芽細胞がすべて上皮細胞へ分化する現象である。

答え・解説 正答：ア

- ア：化学走性は白血球がケモカインや補体由来因子などの化学的勾配を手掛かりに移動する現象である。
- イ：これは血栓形成に関する説明である。
- ウ：赤血球の酸素運搬は化学走性によるものではない。
- エ：これは化学走性の定義ではない。

総合解説：化学走性は白血球がケモカインや補体由来因子などの化学的勾配を手掛かりに移動する現象である。炎症細胞の動員では接着・血管外遊走・化学走性の流れを意識する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0016 病因・病態 > 炎症・修復 | 難易度：標準

創傷治癒の増殖期に形成される肉芽組織の特徴として最も適切なのはどれか。

- ア．成熟骨だけで構成される。
- イ．壊死細胞のみが密集する。
- ウ．新生毛細血管と線維芽細胞が豊富である。
- エ．赤血球だけが増殖して形成される。

答え・解説 正答：ウ

- ア：肉芽組織は骨組織のみから成るものではない。
- イ：肉芽組織は新生血管・線維芽細胞・細胞外基質などからなる。
- ウ：肉芽組織は血管新生、線維芽細胞増殖、細胞外基質形成を特徴とする。
- エ：赤血球は肉芽組織の主体ではない。

総合解説：肉芽組織は血管新生、線維芽細胞増殖、細胞外基質形成を特徴とする。肉芽組織は修復途中の新しい結合組織で、成熟瘢痕とは異なる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0017 病因・病態 > 炎症・修復 | 難易度：標準

一次治癒が最も起こりやすい創はどれか。

- ア．清潔で創縁が近接した外科切開創
- イ．大きな組織欠損があり創縁が離開した創
- ウ．壊死組織が大量に残る感染創
- エ．長期間開放された慢性潰瘍

答え・解説 正答：ア

ア：一次治癒は非感染性で創縁がよく近接した創にみられ、組織欠損と瘢痕形成が比較的小さい。
イ：大きな欠損と離開では二次治癒になりやすい。
ウ：感染や壊死組織は一次治癒を妨げる。
エ：慢性潰瘍は一次治癒の典型ではない。

総合解説：一次治癒は非感染性で創縁がよく近接した創にみられ、組織欠損と瘢痕形成が比較的小さい。創縁の近接と組織欠損の大きさが一次・二次治癒の基本的な分岐になる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0018 病因・病態 > 炎症・修復 | 難易度：標準

正常な創傷治癒の大まかな順序として最も適切なのはどれか。

- ア．増殖 → 止血 → 炎症 → リモデリング
- イ．炎症 → リモデリング → 止血 → 増殖
- ウ．リモデリング → 増殖 → 炎症 → 止血
- エ．止血 → 炎症 → 増殖 → リモデリング

答え・解説 正答：エ

ア：止血は損傷直後から始まり、増殖期より先行する。
イ：リモデリングは後期である。
ウ：順序が逆である。
エ：創傷治癒は重なり合いながら、止血、炎症、増殖、成熟・リモデリングの順に進む。

総合解説：創傷治癒は重なり合いながら、止血、炎症、増殖、成熟・リモデリングの順に進む。各時相の主役を血小板、白血球、線維芽細胞・血管新生、コラーゲン成熟と関連付ける。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0019 病因・病態 > 炎症・修復 | 難易度：応用

創傷治癒のリモデリング期に起こる変化として最も適切なものはどれか。

- ア．未熟なⅢ型コラーゲンが減少し、より成熟したⅠ型コラーゲンの割合が増える。
- イ．新生毛細血管が無制限に増え続ける。
- ウ．好中球が永久に主要細胞として残る。
- エ．上皮がすべて骨組織へ置換される。

答え・解説 正答：ア

- ア：リモデリング期では細胞外基質が再構築され、Ⅲ型からⅠ型コラーゲン優位へ成熟して瘢痕強度が増す。
- イ：リモデリングでは血管密度はむしろ低下する。
- ウ：好中球優位は急性炎症初期である。
- エ：通常の創傷治癒で上皮が骨へ置換されるわけではない。

総合解説：リモデリング期では細胞外基質が再構築され、Ⅲ型からⅠ型コラーゲン優位へ成熟して瘢痕強度が増す。肉芽組織から成熟瘢痕への移行では血管密度低下とコラーゲン再構築が重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0020 病因・病態 > 炎症・修復 | 難易度：応用

抜歯後の創が長期間治癒せず、局所には持続感染と血流不良がある。治癒遅延の説明として最も適切なものはどれか。

- ア．感染が強いほど一次治癒は必ず速くなる。
- イ．血流不良は酸素供給を増やし、コラーゲン形成を促す。
- ウ．慢性創では炎症細胞が完全に不要になる。
- エ．感染と低酸素は炎症を遷延させ、肉芽形成や再上皮化を妨げ得る。

答え・解説 正答：エ

- ア：感染は一次治癒を妨げ、治癒遅延の原因となる。
- イ：血流不良は酸素・栄養供給を減らし、修復を妨げる。
- ウ：持続・過剰な炎症は治癒を妨げる。
- エ：感染、低酸素、血流不良、栄養障害などは正常な創傷治癒を妨げる代表的因子である。

総合解説：感染、低酸素、血流不良、栄養障害などは正常な創傷治癒を妨げる代表的因子である。治癒遅延は局所因子と全身因子を分けて評価する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0021 病因・病態 > 腫瘍 | 難易度：基礎

悪性腫瘍を良性腫瘍から区別するうえで特に重要な性質はどれか。

- ア．必ず被膜を形成すること
- イ．細胞増殖が完全に停止していること
- ウ．すべて肉眼的に小さいこと
- エ．周囲組織への浸潤や遠隔転移を起こし得ること

答え・解説 正答：エ

ア：被膜形成は良性腫瘍で見られることがあり、悪性の必須所見ではない。
イ：腫瘍は異常な細胞増殖を特徴とする。
ウ：大きさだけで良悪性は決められない。
エ：悪性腫瘍の重要な特徴は浸潤性増殖と転移能である。

総合解説：悪性腫瘍の重要な特徴は浸潤性増殖と転移能である。良悪性は大きさだけでなく、浸潤、転移、分化、増殖様式を総合して判断する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0022 病因・病態 > 腫瘍 | 難易度：基礎

上皮組織由来の悪性腫瘍を一般に何と呼ぶか。

- ア．肉腫（sarcoma）
- イ．癌腫（carcinoma）
- ウ．腺腫（adenoma）
- エ．乳頭腫（papilloma）

答え・解説 正答：イ

ア：肉腫は一般に間葉系組織由来の悪性腫瘍を指す。
イ：上皮性悪性腫瘍は癌腫、間葉系悪性腫瘍は肉腫と分類する。
ウ：腺腫は一般に腺上皮由来の良性腫瘍である。
エ：乳頭腫は一般に上皮由来の良性腫瘍である。

総合解説：上皮性悪性腫瘍は癌腫、間葉系悪性腫瘍は肉腫と分類する。由来組織と良悪性を対応させて覚える。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0023 病因・病態 > 腫瘍 | 難易度：基礎

骨・筋・結合組織などの間葉系組織由来の悪性腫瘍を一般に何と呼ぶか。

- ア．癌腫（carcinoma）
- イ．腺腫（adenoma）
- ウ．肉腫（sarcoma）
- エ．過形成（hyperplasia）

答え・解説 正答：ウ

ア：癌腫は上皮性悪性腫瘍である。
イ：腺腫は一般に良性上皮性腫瘍である。
ウ：肉腫は骨、軟部組織など間葉系由来の悪性腫瘍の総称である。
エ：過形成は刺激に応じた細胞数増加で、腫瘍名ではない。

総合解説：肉腫は骨、軟部組織など間葉系由来の悪性腫瘍の総称である。癌腫と肉腫の区別は腫瘍分類の基本である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0024 病因・病態 > 腫瘍 | 難易度：標準

腫瘍細胞の「分化度が低い」状態の説明として最も適切なのはどれか。

- ア．正常組織とほぼ同じ形態と機能を保つ。
- イ．必ず良性である。
- ウ．転移する能力が完全でない。
- エ．正常の由来組織の形態・機能から大きく逸脱している。

答え・解説 正答：エ

ア：これは高分化腫瘍の説明に近い。
イ：低分化は良性を意味しない。
ウ：低分化であることは転移不能を意味しない。
エ：低分化腫瘍では正常組織との類似性が乏しく、異型性が強いことが多い。

総合解説：低分化腫瘍では正常組織との類似性が乏しく、異型性が強いことが多い。分化度は由来組織への似方を表し、病期とは別概念である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0025 病因・病態 > 腫瘍 | 難易度：標準

上皮内癌（carcinoma in situ）の説明として最も適切なのはどれか。

- ア．上皮全層に高度の異型がみられるが、基底膜を越えた浸潤はない。
- イ．遠隔臓器に必ず転移している。
- ウ．上皮細胞に異型が全くない。
- エ．間葉系組織由来の悪性腫瘍だけを指す。

答え・解説 正答：ア

- ア：上皮内癌は高度異型が上皮内に限局し、基底膜を越える浸潤がない段階である。
- イ：上皮内癌は基底膜を越えた浸潤がなく、遠隔転移を前提としない。
- ウ：上皮内癌では高度の細胞異型がみられる。
- エ：上皮内癌は上皮性病変である。

総合解説：上皮内癌は高度異型が上皮内に限局し、基底膜を越える浸潤がない段階である。浸潤の有無が上皮内癌と浸潤癌を分ける重要点である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0026 病因・病態 > 腫瘍 | 難易度：標準

悪性腫瘍の転移経路として一般的でないのはどれか。

- ア．リンパ行性転移
- イ．血行性転移
- ウ．神経伝達物質に乗ってシナプスを越えて移動する経路
- エ．体腔内播種

答え・解説 正答：ウ

- ア：癌腫などでリンパ流を介する転移がみられる。
- イ：血管を介した血行性転移は重要な転移経路である。
- ウ：転移にはリンパ行性、血行性、播種などがある。
- エ：漿膜面などに腫瘍細胞が散布される播種も転移様式の一つである。

総合解説：転移にはリンパ行性、血行性、播種などがある。原発腫瘍から離れた部位への腫瘍細胞移動経路を整理する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0027 病因・病態 > 腫瘍 | 難易度：標準

がん遺伝子（oncogene）の説明として最も適切なのはどれか。

- ア．細胞増殖を促す正常な原がん遺伝子が活性化変異などで過剰に働く状態に関係する。
- イ．DNA修復を完全に不要にする生理的遺伝子である。
- ウ．必ず細胞増殖を抑制する遺伝子である。
- エ．赤血球にだけ存在する遺伝子である。

答え・解説 正答：ア

- ア：原がん遺伝子が変異や過剰発現で活性化されると、増殖シグナルが過剰となり発癌に寄与し得る。
- イ：がん遺伝子の定義ではない。
- ウ：増殖抑制に関与するのは腫瘍抑制遺伝子の概念に近い。
- エ：がん関連遺伝子は特定の赤血球だけに存在するものではない。

総合解説：原がん遺伝子が変異や過剰発現で活性化されると、増殖シグナルが過剰となり発癌に寄与し得る。がん遺伝子はアクセル、腫瘍抑制遺伝子はブレーキという機能対比で理解する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0028 病因・病態 > 腫瘍 | 難易度：標準

腫瘍抑制遺伝子の機能低下が発癌に関与する理由として最も適切なのはどれか。

- ア．細菌の細胞壁合成が促進されるため
- イ．血漿膠質浸透圧が必ず上昇するため
- ウ．細胞周期停止やDNA損傷応答など、異常細胞の増殖を抑える仕組みが失われるため
- エ．すべての細胞が成熟赤血球へ分化するため

答え・解説 正答：ウ

- ア：腫瘍抑制遺伝子は細菌細胞壁合成を制御するものではない。
- イ：発癌機序とは無関係である。
- ウ：p53などの腫瘍抑制系が失われると、DNA損傷をもつ細胞の増殖を止めたり除去したりする制御が弱くなる。
- エ：腫瘍抑制遺伝子機能低下の説明ではない。

総合解説：p53などの腫瘍抑制系が失われると、DNA損傷をもつ細胞の増殖を止めたり除去したりする制御が弱くなる。発癌では増殖促進の増強と増殖抑制の喪失の両方が重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0029 病因・病態 > 腫瘍 | 難易度：応用

発癌因子と分類の組合せとして正しいのはどれか。

- ア．たばこ煙中の多環芳香族炭化水素 — 生物学的発癌因子
- イ．紫外線 — 物理的発癌因子
- ウ．ヒトパピローマウイルス — 物理的発癌因子
- エ．電離放射線 — 化学的発癌因子

答え・解説 正答：イ

ア：多環芳香族炭化水素は化学的発癌因子に分類される。
イ：発癌因子は物理的、化学的、生物学的に大別でき、紫外線や電離放射線は物理的因子である。
ウ：HPVは生物学的発癌因子である。
エ：電離放射線は物理的発癌因子である。

総合解説：発癌因子は物理的、化学的、生物学的に大別でき、紫外線や電離放射線は物理的因子である。代表例を分類ごとに整理する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0030 病因・病態 > 腫瘍 | 難易度：応用

TNM分類における「N」が表すものはどれか。

- ア．原発腫瘍の大きさ・局所進展
- イ．遠隔転移の有無
- ウ．所属（領域）リンパ節への腫瘍進展
- エ．腫瘍細胞の核分裂数だけ

答え・解説 正答：ウ

ア：これはTが表す。
イ：これはMが表す。
ウ：TNMではTが原発腫瘍、Nが所属リンパ節、Mが遠隔転移を表す。
エ：TNMのNは核分裂数を表すものではない。

総合解説：TNMではTが原発腫瘍、Nが所属リンパ節、Mが遠隔転移を表す。病期stageと組織学的分化度gradeは別概念として区別する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0031 感染・免疫 > 微生物・口腔微生物 | 難易度：基礎

細菌の一般的な特徴として正しいのはどれか。

- ア．必ず核膜で囲まれた核をもつ。
- イ．すべて多細胞生物である。
- ウ．自己の代謝系を一切もたない。
- エ．膜で囲まれた核をもたない原核生物である。

答え・解説 正答：エ

ア：細菌は原核生物であり、真核細胞のような核膜で囲まれた核をもたない。
イ：多くの細菌は単細胞の原核生物である。
ウ：細菌は種類に応じた代謝系をもち、ウイルスとは異なる。
エ：細菌は原核生物で、核膜に包まれた核や典型的な膜小器官をもたない。

総合解説：細菌は原核生物で、核膜に包まれた核や典型的な膜小器官をもたない。細菌・真菌・ウイルスの基本構造の違いは微生物学の土台である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0032 感染・免疫 > 微生物・口腔微生物 | 難易度：基礎

グラム陽性菌の一般的な細胞壁の特徴はどれか。

- ア．外膜のリポ多糖を必ず主成分とする。
- イ．細胞壁を全くもたないことが定義である。
- ウ．厚いペプチドグリカン層をもつ。
- エ．セルロースのみでできた細胞壁をもつ。

答え・解説 正答：ウ

ア：外膜とリポ多糖はグラム陰性菌の特徴である。
イ：グラム陽性菌は一般に細胞壁をもつ。
ウ：グラム陽性菌は厚いペプチドグリカン層をもち、グラム染色で紫色を保持しやすい。
エ：セルロース性細胞壁は細菌の主要構造ではない。

総合解説：グラム陽性菌は厚いペプチドグリカン層をもち、グラム染色で紫色を保持しやすい。グラム陰性菌では薄いペプチドグリカン層と外膜が重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0033 感染・免疫 > 微生物・口腔微生物 | 難易度：基礎

細菌の芽胞について正しいのはどれか。

- ア．細菌が有性生殖を行うための配偶子である。
- イ．すべての細菌が常に形成する。
- ウ．通常の栄養細胞より熱や乾燥に弱い。
- エ．一部の細菌が不利な環境で生存するために形成する耐久性の高い構造である。

答え・解説 正答：エ

- ア：芽胞は配偶子ではなく、生存のための耐久構造である。
- イ：芽胞形成能は限られた細菌群にみられる。
- ウ：芽胞は一般に栄養細胞より環境抵抗性が高い。
- エ：内生芽胞は一部の細菌が形成する高耐性構造で、滅菌概念を理解するうえでも重要である。

総合解説：内生芽胞は一部の細菌が形成する高耐性構造で、滅菌概念を理解するうえでも重要である。芽胞は増殖単位ではなく、生存のための形である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0034 感染・免疫 > 微生物・口腔微生物 | 難易度：標準

偏性嫌気性菌の特徴として最も適切なのはどれか。

- ア．酸素がなければ絶対に増殖できない。
- イ．酸素濃度にかかわらず必ず光合成を行う。
- ウ．真核生物にだけ存在する。
- エ．酸素の存在下では増殖が抑制されたり死滅したりする。

答え・解説 正答：エ

- ア：これは偏性好気性菌に近い説明である。
- イ：嫌気性の定義と光合成は無関係である。
- ウ：嫌気性は細菌など多様な微生物にみられる性質である。
- エ：偏性嫌気性菌は酸素を利用せず、酸素により生育が阻害される。

総合解説：偏性嫌気性菌は酸素を利用せず、酸素により生育が阻害される。歯周ポケットのような低酸素環境では嫌気性菌が増えやすいことと関連付ける。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0035 感染・免疫 > 微生物・口腔微生物 | 難易度：標準

歯面に形成されるデンタルプラークをバイオフィルムとして捉えた説明で正しいのはどれか。

- ア．微生物が表面に付着し、細胞外マトリックスを伴う共同体を形成している。
- イ．単一菌種が常に浮遊状態で存在するだけである。
- ウ．無菌の唾液蛋白だけで構成される。
- エ．形成後も環境条件による菌叢変化は起こらない。

答え・解説 正答：ア

ア：デンタルプラークは表面付着性の微生物共同体で、細胞外基質と複雑な相互作用をもつ。
イ：デンタルプラークは多種の微生物からなる付着性バイオフィルムである。
ウ：獲得被膜には唾液由来成分があるが、プラークは微生物共同体を含む。
エ：菌叢は栄養、pH、酸素などの環境で変化する。

総合解説：デンタルプラークは表面付着性の微生物共同体で、細胞外基質と複雑な相互作用をもつ。口腔疾患は単一菌だけでなく、バイオフィルム生態系の変化として理解することが重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0036 感染・免疫 > 微生物・口腔微生物 | 難易度：標準

う蝕に関連する口腔バイオフィルムの特徴として最も適切なのはどれか。

- ア．歯面のpHが高く保たれるほど脱灰が促進する。
- イ．う蝕は必ず1種類の細菌だけで成立する。
- ウ．糖質は口腔細菌の代謝に全く影響しない。
- エ．発酵性糖質の頻回摂取などで酸産生・耐酸性の菌が優位になり、低pH環境が持続する。

答え・解説 正答：エ

ア：脱灰は酸性化により促進される。
イ：現在は複数菌種と環境のdysbiosisを含む生態学的病因として捉えられる。
ウ：発酵性糖質は酸産生に関与し、バイオフィルム環境を変化させる。
エ：う蝕は酸産生・耐酸性菌が選択されるdysbiosisと低pH環境の持続によって進みやすくなる。

総合解説：う蝕は酸産生・耐酸性菌が選択されるdysbiosisと低pH環境の持続によって進みやすくなる。S. mutansは重要な関連菌だが、う蝕を単一菌感染だけで説明しない。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0037 感染・免疫 > 微生物・口腔微生物 | 難易度：標準

Streptococcus mutansがう蝕関連菌として注目される性質として適切なのはどれか。

- ア．強いアルカリ産生だけで歯質脱灰を促す。
- イ．歯面バイオフィルム形成に関与し、糖から酸を産生し耐酸性も示す。
- ウ．偏性細胞内寄生性ウイルスである。
- エ．歯周組織の骨形成を直接促進する真菌である。

答え・解説 正答：イ

ア：う蝕との関連では酸産生・耐酸性が重要である。
イ：S. mutansは付着性、酸産生性、耐酸性などからう蝕関連菌として重要である。
ウ：S. mutansは細菌でありウイルスではない。
エ：S. mutansは真菌ではない。

総合解説：S. mutansは付着性、酸産生性、耐酸性などからう蝕関連菌として重要である。現代的には、う蝕はバイオフィルム全体の生態学的変化として理解する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0038 感染・免疫 > 微生物・口腔微生物 | 難易度：標準

Porphyromonas gingivalisについて最も適切なのはどれか。

- ア．嫌気性の歯周炎関連菌として知られ、歯周バイオフィルムのdysbiosisに関与する。
- イ．代表的な好気性ウイルスである。
- ウ．健常エナメル質の無菌化だけを担う。
- エ．歯質の石灰化を促す宿主細胞である。

答え・解説 正答：ア

ア：P. gingivalisは嫌気性グラム陰性菌で、歯周炎に関連する微生物群の重要な一員である。
イ：P. gingivalisは細菌でありウイルスではない。
ウ：歯周炎関連菌として病態形成に関与する。
エ：宿主細胞ではなく細菌である。

総合解説：P. gingivalisは嫌気性グラム陰性菌で、歯周炎に関連する微生物群の重要な一員である。歯周炎は細菌単独ではなく、dysbiosisと宿主炎症応答の相互作用で進行する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0039 感染・免疫 > 微生物・口腔微生物 | 難易度：応用

Candida albicansの分類として正しいのはどれか。

- ア．ウイルス
- イ．原虫
- ウ．真菌
- エ．プリオン

答え・解説 正答：ウ

ア：Candidaはウイルスではない。
イ：Candidaは原虫ではない。
ウ：Candida albicansは酵母様真菌で、口腔カンジダ症などに関与する。
エ：Candidaは異常蛋白であるプリオンではない。

総合解説：Candida albicansは酵母様真菌で、口腔カンジダ症などに関与する。細菌・真菌・ウイルスを分類できることは感染症理解の基本である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0040 感染・免疫 > 微生物・口腔微生物 | 難易度：応用

ウイルスについて正しいのはどれか。

- ア．自らリボソームをもち、宿主なしで通常の培地上に増殖する。
- イ．すべてペプチドグリカン細胞壁をもつ。
- ウ．抗菌薬がすべてのウイルス感染に直接有効である。
- エ．宿主細胞の機構を利用して増殖する偏性細胞内寄生体である。

答え・解説 正答：エ

ア：ウイルスは自己のリボソームをもたず、宿主細胞なしに通常の細菌培地で増殖できない。
イ：ペプチドグリカン細胞壁は細菌の構造である。
ウ：細菌を標的とする抗菌薬はウイルスには基本的に作用しない。
エ：ウイルスは核酸と蛋白質などからなり、宿主細胞の代謝・合成系を利用して複製する。

総合解説：ウイルスは核酸と蛋白質などからなり、宿主細胞の代謝・合成系を利用して複製する。細菌とウイルスの構造・増殖様式の違いが、治療薬の違いにもつながる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0041 感染・免疫 > 感染の成立・感染症 | 難易度：基礎

微生物の「定着（colonization）」の説明として最も適切なのはどれか。

- ア．微生物が存在すれば必ず発熱と組織破壊を起こす状態である。
- イ．宿主の免疫系が完全に消失した状態である。
- ウ．微生物が宿主の部位に存在・増殖していても、必ずしも組織障害や症状を伴わない状態である。
- エ．すべての微生物が血中へ侵入した状態である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：定着は必ずしも症状や組織障害を伴わない。
- イ：定着の定義ではない。
- ウ：定着と感染症は同義ではなく、微生物の存在だけで臨床的感染症とはいえない。
- エ：血中侵入は菌血症などに関係し、定着とは異なる。

総合解説：定着と感染症は同義ではなく、微生物の存在だけで臨床的感染症とはいえない。感染成立では宿主、微生物、侵入部位、組織反応を区別して考える。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0042 感染・免疫 > 感染の成立・感染症 | 難易度：基礎

内因性感染の例として最も適切なのはどれか。

- ア．他人の飛沫から初めて病原体を受け取る。
- イ．滅菌済み器具から無菌状態が維持される。
- ウ．ワクチンにより免疫記憶が形成される。
- エ．宿主にもともと存在する常在微生物が、環境変化や免疫低下を契機に病原性を示す。

答え・解説 正答：エ

- ア：これは外因性感染の例である。
- イ：感染の例ではない。
- ウ：これは予防免疫の説明である。
- エ：内因性感染は自己の常在微生物叢などが感染源となる。

総合解説：内因性感染は自己の常在微生物叢などが感染源となる。口腔は常在微生物が多いため、宿主防御や環境の変化が病原性発現に関わる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0043 感染・免疫 > 感染の成立・感染症 | 難易度：基礎

日和見感染の説明として正しいのはどれか。

- ア．病原体が存在しなくても必ず起こる。
- イ．免疫機能が高いほど必ず重症化する。
- ウ．通常は病原性が低い微生物でも、免疫低下など宿主防御が弱まると感染症を起こすことがある。
- エ．抗菌薬使用や基礎疾患とは全く関係しない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：日和見感染も微生物による感染である。
- イ：一般に宿主防御の低下が発症リスクを高める。
- ウ：日和見感染は宿主防御低下と微生物の機会的増殖の組合せで成立する。
- エ：抗菌薬使用や免疫抑制なども微生物叢・宿主防御に影響し得る。

総合解説：日和見感染は宿主防御低下と微生物の機会的増殖の組合せで成立する。感染症の発症は微生物の病原性だけでなく宿主側要因にも左右される。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0044 感染・免疫 > 感染の成立・感染症 | 難易度：標準

感染の連鎖を断つ対策として最も適切な考え方はどれか。

- ア．感染経路は一つしかないため、手指衛生だけ考えればよい。
- イ．患者の診断が確定するまで標準予防策を行わない。
- ウ．感染源、排出門戸、伝播経路、侵入門戸、感受性宿主などのいずれかを遮断する。
- エ．微生物の種類にかかわらず器材の再処理は不要である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：感染経路は多様で、リスクに応じた複合対策が必要である。
- イ：標準予防策は診断の有無にかかわらず全患者に適用する。
- ウ：感染は感染源から感受性宿主までの連鎖で成立し、そのどこかを遮断することが予防の基本である。
- エ：再使用器材は用途に応じた適切な再処理が必要である。

総合解説：感染は感染源から感受性宿主までの連鎖で成立し、そのどこかを遮断することが予防の基本である。感染対策は一つの手段ではなく、複数の防御層を組み合わせる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0045 感染・免疫 > 感染の成立・感染症 | 難易度：標準

標準予防策の適用について正しいのはどれか。

- ア．感染症の診断の有無にかかわらず、すべての患者のケアに適用する。
- イ．HIV感染が確認された患者だけに適用する。
- ウ．発熱患者には適用せず、無症状患者だけに適用する。
- エ．歯科では血液曝露がないため適用しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：標準予防策は、すべての患者の血液・体液等に感染性があり得るという考えに基づく基本対策である。
- イ：標準予防策は特定の感染症患者だけではなく全患者に適用する。
- ウ：症状の有無にかかわらず全患者が対象である。
- エ：歯科でも血液・唾液・粘膜への曝露リスクがある。

総合解説：標準予防策は、すべての患者の血液・体液等に感染性があり得るという考えに基づく基本対策である。診断されてから対策するのではなく、全患者に基本対策を行う。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0046 感染・免疫 > 感染の成立・感染症 | 難易度：標準

処置中に血液や唾液の飛散が予想される。標準予防策として最も適切なのはどれか。

- ア．飛散が予想されてもPPEは使用しない。
- イ．患者ごとに手袋を交換せず連続使用する。
- ウ．手袋に加え、マスクと眼・顔面防護を曝露リスクに応じて使用する。
- エ．眼の粘膜は感染経路にならないため防護不要である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：飛沫・飛散が予想される場合は粘膜や皮膚を守るPPEが必要である。
- イ：手袋は患者間で交換し、外した後は手指衛生を行う。
- ウ：PPEは患者の診断名ではなく、予想される血液・体液曝露の種類と程度に応じて選択する。
- エ：眼・鼻・口の粘膜は曝露部位となり得る。

総合解説：PPEは患者の診断名ではなく、予想される血液・体液曝露の種類と程度に応じて選択する。標準予防策はリスク評価に基づくPPE選択を含む。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0047 感染・免疫 > 感染の成立・感染症 | 難易度：標準

滅菌の説明として最も適切なのはどれか。

- ア．病原性の強い細菌だけを減らせばよい。
- イ．細菌芽胞を含むすべての微生物を死滅・除去することを目的とする。
- ウ．目に見える汚れを水で落とすことだけを指す。
- エ．芽胞は必ず残す処理を指す。

答え・解説 正答：イ

- ア：これは滅菌の定義ではない。
- イ：滅菌は芽胞を含む全微生物の除去・死滅を目標とし、消毒より高いレベルの微生物除去概念である。
- ウ：これは洗浄である。
- エ：滅菌では芽胞も対象となる。

総合解説：滅菌は芽胞を含む全微生物の除去・死滅を目標とし、消毒より高いレベルの微生物除去概念である。洗浄・消毒・滅菌の違いを器材の用途と合わせて理解する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0048 感染・免疫 > 感染の成立・感染症 | 難易度：標準

感染症の潜伏期とは一般に何を指すか。

- ア．症状が消えてから一生涯の期間
- イ．抗菌薬投与から薬物が完全排泄されるまでの期間
- ウ．感染源が環境中で生存できる最大時間だけ
- エ．病原体に感染してから症状が現れるまでの期間

答え・解説 正答：エ

- ア：潜伏期の定義ではない。
- イ：薬物動態上の期間である。
- ウ：潜伏期は宿主感染後から発症までの期間である。
- エ：潜伏期は感染成立から臨床症状出現までの時間である。

総合解説：潜伏期は感染成立から臨床症状出現までの時間である。感染可能期間や回復期とは区別して用語を整理する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0049 感染・免疫 > 感染の成立・感染症 | 難易度：応用

使用済み注射針による針刺しを予防する基本方針として最も適切なのはどれか。

- ア．使用済み針を手で曲げてから一般ごみに捨てる。
- イ．血液が見えなければ再使用する。
- ウ．鋭利器材を安全に取り扱い、使用後は適切な耐貫通性容器へ廃棄する。
- エ．手袋をしていれば針刺し後の対応は不要である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：手で曲げる操作は針刺しリスクを高め、一般ごみへの廃棄も不適切である。
- イ：血液の肉眼所見で安全性を判断しない。
- ウ：鋭利器材の安全な取り扱いと廃棄は血液媒介感染予防の重要な柱である。
- エ：手袋は針刺しを完全には防げず、曝露後は所定の評価・報告が必要である。

総合解説：鋭利器材の安全な取り扱いと廃棄は血液媒介感染予防の重要な柱である。 予防策だけでなく、曝露時に速やかに報告・評価する体制も重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0050 感染・免疫 > 感染の成立・感染症 | 難易度：応用

同じ病原体に曝露しても発症する人とならない人がいる理由として最も適切なのはどれか。

- ア．病原体の種類以外は発症に全く影響しないため
- イ．病原体量・病原性、侵入経路、宿主免疫状態など複数因子が感染成立と発症に影響するため
- ウ．すべての曝露は同じ確率で必ず発症するため
- エ．宿主の免疫状態は感染症に関係しないため

答え・解説 正答：イ

- ア：感染成立は宿主・環境・曝露量など多因子で決まる。
- イ：感染症は病原体側因子、感染経路、曝露量、宿主防御などの相互作用で成立する。
- ウ：曝露が直ちに感染症発症を意味するわけではない。
- エ：免疫状態は感染・重症化リスクに大きく関与する。

総合解説：感染症は病原体側因子、感染経路、曝露量、宿主防御などの相互作用で成立する。 微生物がいることと感染症が発症することは同義ではない。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0051 感染・免疫 > 免疫・アレルギー | 難易度：基礎

自然免疫の特徴として最も適切なのはどれか。

- ア．感染初期から働く非特異的な防御機構である。
- イ．抗原ごとの高度な特異性と長期記憶だけで成り立つ。
- ウ．B細胞が産生する抗体だけで構成される。
- エ．初回曝露では全く働かない。

答え・解説 正答：ア

- ア：自然免疫は皮膚・粘膜、食細胞、NK細胞、補体などによる迅速で非特異的な防御である。
- イ：これは獲得免疫の特徴に近い。
- ウ：自然免疫には好中球、マクロファージ、NK細胞、補体など多様な要素がある。
- エ：自然免疫は初回曝露から迅速に働く。

総合解説：自然免疫は皮膚・粘膜、食細胞、NK細胞、補体などによる迅速で非特異的な防御である。獲得免疫は抗原特異性と免疫記憶が特徴である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0052 感染・免疫 > 免疫・アレルギー | 難易度：基礎

Bリンパ球の主要な役割として正しいのはどれか。

- ア．好中球へ分化して細菌を貪食する。
- イ．骨芽細胞へ分化して骨形成を担う。
- ウ．抗原刺激後に形質細胞へ分化し、抗体産生に関与する。
- エ．血小板へ分化して一次止血を担う。

答え・解説 正答：ウ

- ア：B細胞が好中球へ分化するわけではない。
- イ：B細胞は骨芽細胞の前駆細胞ではない。
- ウ：B細胞は体液性免疫を担い、活性化後に形質細胞となって抗体を産生する。
- エ：血小板は巨核球由来である。

総合解説：B細胞は体液性免疫を担い、活性化後に形質細胞となって抗体を産生する。B細胞＝抗体、T細胞＝細胞性免疫という基本役割を整理する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0053 感染・免疫 > 免疫・アレルギー | 難易度：基礎

CD4陽性ヘルパーT細胞の主な役割として最も適切なのはどれか。

- ア．ヘモグロビンを合成して酸素を運搬する。
- イ．抗体そのものを大量分泌する。
- ウ．サイトカインなどを介してB細胞や他の免疫細胞の反応を調節する。
- エ．血液凝固因子だけを産生する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：これは赤血球の機能である。
- イ：抗体分泌は主に形質細胞が担う。
- ウ：CD4陽性T細胞はサイトカインを通じてB細胞やマクロファージなどの反応を調節する。
- エ：ヘルパーT細胞の主要機能ではない。

総合解説：CD4陽性T細胞はサイトカインを通じてB細胞やマクロファージなどの反応を調節する。T細胞のサブセットごとの役割を区別する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0054 感染・免疫 > 免疫・アレルギー | 難易度：標準

唾液などの粘膜分泌液で重要な免疫グロブリンはどれか。

- ア．IgD
- イ．IgE
- ウ．IgA
- エ．IgMのみ

答え・解説 正答：ウ

- ア：IgDは主にB細胞表面受容体として知られ、粘膜分泌液の主要抗体ではない。
- イ：IgEはI型アレルギーや寄生虫防御に重要で、唾液中の主要分泌抗体ではない。
- ウ：分泌型IgAは唾液など粘膜表面で病原体の付着・侵入を妨げる重要な抗体である。
- エ：IgMも重要だが、粘膜分泌液では分泌型IgAが中心である。

総合解説：分泌型IgAは唾液など粘膜表面で病原体の付着・侵入を妨げる重要な抗体である。口腔免疫では唾液の洗浄作用に加え、IgAなどの免疫因子を理解する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0055 感染・免疫 > 免疫・アレルギー | 難易度：標準

アナフィラキシーに代表されるI型過敏反応の中心的機序はどれか。

- ア．IgGが細胞表面抗原に結合する機序だけ
- イ．IgEが関与する肥満細胞・好塩基球の脱顆粒
- ウ．免疫複合体が組織に沈着する機序
- エ．感作T細胞による遅延反応

答え・解説 正答：イ

- ア：これはII型過敏反応の一例に近い。
- イ：I型過敏反応ではIgEで感作された肥満細胞などが再曝露で脱顆粒し、ヒスタミン等を放出する。
- ウ：これはIII型過敏反応の中心機序である。
- エ：これはIV型過敏反応の機序である。

総合解説：I型過敏反応ではIgEで感作された肥満細胞などが再曝露で脱顆粒し、ヒスタミン等を放出する。I～IV型は抗体の種類とT細胞関与を軸に整理する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0056 感染・免疫 > 免疫・アレルギー | 難易度：標準

II型過敏反応の基本的な機序として最も適切なのはどれか。

- ア．可溶性免疫複合体の沈着だけで生じる。
- イ．細胞表面などの抗原に対するIgGまたはIgMが関与し、補体などを介して細胞障害を起こす。
- ウ．IgEによる肥満細胞脱顆粒だけで生じる。
- エ．抗体を介さず感作T細胞だけで生じる。

答え・解説 正答：イ

- ア：これはIII型過敏反応の基本機序である。
- イ：II型は細胞表面などに対する抗体が補体活性化や細胞傷害を起こす反応である。
- ウ：これはI型過敏反応である。
- エ：これはIV型過敏反応の説明である。

総合解説：II型は細胞表面などに対する抗体が補体活性化や細胞傷害を起こす反応である。I型 = IgE、II型 = 細胞表面抗原への抗体、III型 = 免疫複合体、IV型 = T細胞で整理する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0057 感染・免疫 > 免疫・アレルギー | 難易度：標準

Ⅲ型過敏反応の特徴として正しいのはどれか。

- ア．可溶性抗原と抗体の免疫複合体が組織に沈着し、補体活性化などにより炎症を起こす。
- イ．IgEで感作された肥満細胞が即時脱顆粒する。
- ウ．T細胞だけで遅延性の組織障害を起こす。
- エ．免疫系と無関係な機械的外傷だけで起こる。

答え・解説 正答：ア

- ア：Ⅲ型では免疫複合体が沈着し、補体と好中球を介して組織障害を生じる。
- イ：これはⅠ型過敏反応である。
- ウ：これはⅣ型過敏反応である。
- エ：Ⅲ型は免疫複合体を介する免疫反応である。

総合解説：Ⅲ型では免疫複合体が沈着し、補体と好中球を介して組織障害を生じる。免疫複合体というキーワードでⅢ型を識別する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0058 感染・免疫 > 免疫・アレルギー | 難易度：標準

Ⅳ型過敏反応の特徴として最も適切なのはどれか。

- ア．感作Tリンパ球が関与する遅延型反応である。
- イ．IgEが主役の即時型反応である。
- ウ．免疫複合体の沈着だけが主機序である。
- エ．補体欠損だけを意味する。

答え・解説 正答：ア

- ア：Ⅳ型過敏反応は抗体ではなく感作T細胞が中心となり、接触皮膚炎などでみられる。
- イ：これはⅠ型過敏反応である。
- ウ：これはⅢ型過敏反応である。
- エ：Ⅳ型はT細胞を主体とする過敏反応である。

総合解説：Ⅳ型過敏反応は抗体ではなく感作T細胞が中心となり、接触皮膚炎などでみられる。即時型か遅延型か、抗体かT細胞かを軸に分類する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0059 感染・免疫 > 免疫・アレルギー | 難易度：応用

補体成分C3bの主要な働きとして適切なのはどれか。

- ア．抗体の遺伝子再構成を直接行う。
- イ．病原体表面を被覆し、食細胞による貪食を促進する。
- ウ．赤血球でヘモグロビンを合成する。
- エ．神経筋接合部でアセチルコリンを放出する。

答え・解説 正答：イ

- ア：抗体遺伝子再構成はリンパ球で起こる過程で、C3bの機能ではない。
- イ：C3bは代表的なオプソニンとして病原体表面に結合し、食細胞の認識・貪食を助ける。
- ウ：補体の機能ではない。
- エ：補体の主要機能ではない。

総合解説：C3bは代表的なオプソニンとして病原体表面に結合し、食細胞の認識・貪食を助ける。補体はオプソニン化、炎症促進、膜侵襲複合体形成など複数の作用をもつ。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0060 感染・免疫 > 免疫・アレルギー | 難易度：応用

ワクチン接種後に、同じ抗原への再曝露で速く強い免疫応答が起こる主な理由はどれか。

- ア．抗原特異的な記憶B細胞・記憶T細胞が形成されるため
- イ．好中球が永久に同一抗原だけを記憶するため
- ウ．すべての補体蛋白が抗原ごとに遺伝子変異するため
- エ．赤血球が抗原を核内DNAに保存するため

答え・解説 正答：ア

- ア：獲得免疫は抗原特異性と免疫記憶をもち、記憶リンパ球が二次応答を迅速・強力にする。
- イ：好中球は抗原特異的記憶の主体ではない。
- ウ：補体は抗原特異的記憶の主体ではない。
- エ：成熟赤血球は核をもたず、免疫記憶を担わない。

総合解説：獲得免疫は抗原特異性と免疫記憶をもち、記憶リンパ球が二次応答を迅速・強力にする。ワクチンの基本原理は免疫記憶の形成にある。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0061 生体と薬物 > 薬理作用・薬物動態 | 難易度：基礎

薬力学（pharmacodynamics）の説明として最も適切なのはどれか。

- ア．薬物の吸収・分布・代謝・排泄だけを扱う。
- イ．薬物の製造原価だけを扱う。
- ウ．薬物が生体にどのような作用を及ぼすかを扱う。
- エ．薬物名の語源だけを扱う。

答え・解説 正答：ウ

- ア：これは主に薬物動態の範囲である。
- イ：薬力学の定義ではない。
- ウ：薬力学は薬物濃度と作用、受容体、最大効果など「薬が体にすること」を扱う。
- エ：薬力学の定義ではない。

総合解説：薬力学は薬物濃度と作用、受容体、最大効果など「薬が体にすること」を扱う。薬力学と薬物動態を明確に区別する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0062 生体と薬物 > 薬理作用・薬物動態 | 難易度：基礎

薬物動態（pharmacokinetics）の基本過程に含まれる組合せはどれか。

- ア．発赤・腫脹・熱感・疼痛
- イ．転写・翻訳・複製・修復
- ウ．止血・炎症・増殖・リモデリング
- エ．吸収・分布・代謝・排泄

答え・解説 正答：エ

- ア：これは炎症徴候である。
- イ：分子生物学的過程で、薬物動態の基本4過程ではない。
- ウ：これは創傷治癒の時相である。
- エ：薬物動態はADME、すなわち吸収、分布、代謝、排泄の時間的推移を扱う。

総合解説：薬物動態はADME、すなわち吸収、分布、代謝、排泄の時間的推移を扱う。投与経路や臓器機能が血中濃度にもどう影響するかをADMEで整理する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0063 生体と薬物 > 薬理作用・薬物動態 | 難易度：基礎

受容体作動薬（agonist）の説明として正しいのはどれか。

- ア．受容体に結合しても必ず反応を完全遮断する。
- イ．薬物を腎臓から排泄する輸送体だけを指す。
- ウ．薬物を不活化する肝酵素だけを指す。
- エ．受容体に結合して、その受容体を介する反応を引き起こす。

答え・解説 正答：エ

- ア：これは拮抗薬の説明に近い。
- イ：作動薬は受容体作用に関する概念である。
- ウ：代謝酵素と作動薬は異なる概念である。
- エ：作動薬は受容体に結合してシグナルを活性化し、薬理効果を生じる。

総合解説：作動薬は受容体に結合してシグナルを活性化し、薬理効果を生じる。作動薬・部分作動薬・拮抗薬の違いは受容体活性化能で整理する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0064 生体と薬物 > 薬理作用・薬物動態 | 難易度：標準

受容体拮抗薬（antagonist）の基本的な作用として最も適切なのはどれか。

- ア．受容体を必ず最大限に活性化する。
- イ．受容体に結合して作動薬などによる受容体活性化を妨げる。
- ウ．薬物の吸収を必ず100%にする。
- エ．すべての薬物を尿中へ排泄させる。

答え・解説 正答：イ

- ア：これは完全作動薬の作用に近い。
- イ：拮抗薬は受容体に結合しても作動薬と同じ活性化を起こさず、その作用を抑制する。
- ウ：拮抗薬の定義ではない。
- エ：拮抗薬の作用は受容体レベルの反応抑制である。

総合解説：拮抗薬は受容体に結合しても作動薬と同じ活性化を起こさず、その作用を抑制する。薬理作用は結合だけでなく、結合後に受容体を活性化するかを見る。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0065 生体と薬物 > 薬理作用・薬物動態 | 難易度：標準

経口投与薬の生物学的利用能が低下する要因として、初回通過効果の説明で正しいのはどれか。

- ア．消化管から吸収された薬物が全身循環に達する前に腸管や肝臓で代謝される。
- イ．静脈内投与薬が投与前に肝臓で完全代謝される。
- ウ．薬物が受容体に結合した後だけ腎臓が消失する。
- エ．薬物が血漿蛋白と結合すると必ず100%排泄される。

答え・解説 正答：ア

ア：経口薬は門脈を介して肝臓へ達し、初回通過代謝により全身循環へ到達する未変化体が減ることがある。
イ：静脈内投与は通常の初回通過を受けず全身循環へ入る。
ウ：初回通過効果は全身循環到達前の代謝に関する概念である。
エ：蛋白結合と初回通過効果は異なる。

総合解説：経口薬は門脈を介して肝臓へ達し、初回通過代謝により全身循環へ到達する未変化体が減ることがある。生物学的利用能は全身循環へ届く割合を考える。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0066 生体と薬物 > 薬理作用・薬物動態 | 難易度：標準

分布容積が同じ薬物でクリアランスが低下した場合、一般に半減期はどうなるか。

- ア．短縮する。
- イ．必ずゼロになる。
- ウ．延長する。
- エ．濃度に無関係に必ず1分となる。

答え・解説 正答：ウ

ア：半減期はクリアランスに反比例するため、クリアランス低下では延長する。
イ：クリアランス低下で半減期がゼロになることはない。
ウ：半減期はおおむね分布容積に比例し、クリアランスに反比例する。
エ：半減期は分布容積やクリアランスに依存する。

総合解説：半減期はおおむね分布容積に比例し、クリアランスに反比例する。腎・肝機能低下でクリアランスが落ちる薬物では蓄積リスクを考える。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0067 生体と薬物 > 薬理作用・薬物動態 | 難易度：標準

一定速度で薬物を投与したとき、血中濃度が定常状態へ近づく時間を主に規定するのはどれか。

- ア．薬物の消失半減期
- イ．錠剤の色
- ウ．患者の身長だけ
- エ．薬物名の文字数

答え・解説 正答：ア

ア：多くの薬物では定常状態への到達におよそ4～5半減期を要する。
イ：色は定常状態到達時間の主要決定因子ではない。
ウ：身長だけで定常状態到達時間は決まらない。
エ：薬物動態とは無関係である。

総合解説：多くの薬物では定常状態への到達におよそ4～5半減期を要する。投与量を増やすと定常濃度は変わるが、到達に必要な時間は主に半減期に依存する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0068 生体と薬物 > 薬理作用・薬物動態 | 難易度：標準

治療係数が大きい薬物について一般にいえることはどれか。

- ア．少量の濃度変化で必ず重篤な中毒になる。
- イ．有効作用が全くないことを意味する。
- ウ．体内から排泄されないことを意味する。
- エ．有効量と中毒量の隔たりが比較的大きく、安全域が広い傾向がある。

答え・解説 正答：エ

ア：これは安全域が狭い薬物で問題になりやすい。
イ：治療係数是有効性の有無ではなく有効量と毒性量の幅を表す。
ウ：治療係数と排泄の有無は別概念である。
エ：治療係数は薬物の安全域を考える指標で、大きいほど有効域と毒性域の隔たりが広い傾向がある。

総合解説：治療係数は薬物の安全域を考える指標で、大きいほど有効域と毒性域の隔たりが広い傾向がある。安全域が狭い薬物では血中濃度や相互作用への注意が重要になる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0069 生体と薬物 > 薬理作用・薬物動態 | 難易度：応用

薬力学におけるEC50の説明として正しいのはどれか。

- ア．薬物の50％が尿中に排泄される時間を表す。
- イ．最大効果の50％を生じる薬物濃度を表す。
- ウ．投与した薬物の50％が血漿蛋白に結合する割合を表す。
- エ．50％の患者で死亡する濃度を表す。

答え・解説 正答：イ

- ア：これはEC50ではなく、半減期とも異なる。
- イ：EC50は最大効果Emaxの半分を生じる濃度で、薬物の作用強度を考える指標の一つである。
- ウ：EC50は薬効と濃度の関係を示す。
- エ：EC50は最大効果の50％を生じる濃度で、致死率の指標ではない。

総合解説：EC50は最大効果Emaxの半分を生じる濃度で、薬物の作用強度を考える指標の一つである。Emaxは最大効果、EC50は半最大効果を生む濃度と区別する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0070 生体と薬物 > 薬理作用・薬物動態 | 難易度：応用

主に腎排泄される薬物を腎機能が大きく低下した患者に通常量で反復投与した。起こり得る変化として最も適切なのはどれか。

- ア．排泄が必ず速くなり血中濃度は低下する。
- イ．半減期が必ず短縮する。
- ウ．薬物動態は臓器機能の影響を全く受けない。
- エ．クリアランスが低下して薬物が蓄積し、作用や有害事象が増強することがある。

答え・解説 正答：エ

- ア：腎排泄型薬物では腎機能低下により排泄が遅くなることがある。
- イ：クリアランス低下では半減期は延長する方向に働く。
- ウ：腎・肝機能は多くの薬物の消失に影響する。
- エ：腎排泄依存度の高い薬物では腎機能低下によりクリアランスが落ち、蓄積しやすくなる。

総合解説：腎排泄依存度の高い薬物では腎機能低下によりクリアランスが落ち、蓄積しやすくなる。患者背景を無視せず、薬物の消失経路を確認する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0071 生体と薬物 > 主要薬物・副作用・相互作用 | 難易度：基礎

薬物アレルギーの説明として最も適切なのはどれか。

- ア．薬物またはその代謝物に対する免疫学的機序が関与する有害反応である。
- イ．薬理作用から予測できるすべての副作用と同義である。
- ウ．投与量が多いときだけ必ず起こる毒性反応である。
- エ．薬を服用していない人にしか起こらない。

答え・解説 正答：ア

- ア：有害反応には薬理作用の延長、毒性、相互作用、免疫学的アレルギーなど異なる機序がある。
- イ：薬物アレルギーは免疫学的機序を伴う反応で、すべての副作用と同義ではない。
- ウ：アレルギーは必ずしも用量依存性ではない。
- エ：薬物曝露と感作などが関与する。

総合解説：有害反応には薬理作用の延長、毒性、相互作用、免疫学的アレルギーなど異なる機序がある。問診では「副作用があった」だけでなく症状と原因薬を具体的に確認する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0072 生体と薬物 > 主要薬物・副作用・相互作用 | 難易度：基礎

非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）の主要な作用機序はどれか。

- ア．電位依存性Naチャネルを遮断して局所麻酔を起こす。
- イ．シクロオキシゲナーゼ（COX）を阻害し、プロスタノイド産生を低下させる。
- ウ．細菌のリボソームだけを阻害する。
- エ．IgEを直接分解して抗炎症作用を示す。

答え・解説 正答：イ

- ア：これは局所麻酔薬の主要機序である。
- イ：NSAIDsはCOX阻害によりプロスタグランジン等の産生を減らし、鎮痛・解熱・抗炎症作用を示す。
- ウ：これは一部抗菌薬の作用機序で、NSAIDsではない。
- エ：NSAIDsの主要機序ではない。

総合解説：NSAIDsはCOX阻害によりプロスタグランジン等の産生を減らし、鎮痛・解熱・抗炎症作用を示す。COX阻害は治療効果だけでなく胃粘膜、腎、血小板関連の有害作用にもつながる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0073 生体と薬物 > 主要薬物・副作用・相互作用 | 難易度：基礎

アセトアミノフェンの特徴として最も適切なのはどれか。

- ア．鎮痛・解熱作用をもつが、末梢の抗炎症作用はNSAIDsより弱い。
- イ．局所麻酔薬として神経のNaチャンネルを直接遮断する。
- ウ．抗菌薬として細菌細胞壁を破壊する。
- エ．抗凝固薬としてビタミンK依存性因子を抑制する。

答え・解説 正答：ア

- ア：アセトアミノフェンは代表的な非オピオイド鎮痛・解熱薬で、末梢抗炎症作用は強くない。
- イ：アセトアミノフェンは局所麻酔薬ではない。
- ウ：抗菌薬ではない。
- エ：これはワルファリンの作用である。

総合解説：アセトアミノフェンは代表的な非オピオイド鎮痛・解熱薬で、末梢抗炎症作用は強くない。過量摂取では肝障害が問題となるため、重複含有製剤にも注意する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0074 生体と薬物 > 主要薬物・副作用・相互作用 | 難易度：標準

NSAIDs使用で注意すべき有害作用の組合せとして最も適切なのはどれか。

- ア．消化管障害・腎機能悪化・出血傾向
- イ．低血糖・白内障・骨形成促進
- ウ．免疫不全・無菌化・赤血球増多
- エ．歯の萌出促進・唾液増加・視力改善

答え・解説 正答：ア

- ア：NSAIDsは胃粘膜保護プロスタグランジン低下、腎血流への影響、血小板機能への影響などから有害事象を生じ得る。
- イ：NSAIDsの代表的有害作用の組合せではない。
- ウ：NSAIDsの一般的有害作用ではない。
- エ：NSAIDsの薬理作用とは無関係である。

総合解説：NSAIDsは胃粘膜保護プロスタグランジン低下、腎血流への影響、血小板機能への影響などから有害事象を生じ得る。基礎疾患や併用薬がある患者ではリスクが増える場合がある。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0075 生体と薬物 > 主要薬物・副作用・相互作用 | 難易度：標準

アセトアミノフェンの過量摂取で特に重要な重篤毒性はどれか。

- ア．歯槽骨過形成
- イ．肝障害
- ウ．細菌性肺炎
- エ．甲状腺機能亢進

答え・解説 正答：イ

- ア：代表的な毒性ではない。
- イ：アセトアミノフェンは適正使用では有用だが、過量では重篤な肝障害を起こし得る。
- ウ：過量摂取の主要毒性ではない。
- エ：主要な毒性ではない。

総合解説：アセトアミノフェンは適正使用では有用だが、過量では重篤な肝障害を起こし得る。市販の総合感冒薬などにも含まれるため、成分重複の確認が重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0076 生体と薬物 > 主要薬物・副作用・相互作用 | 難易度：標準

抗菌薬の使用について最も適切な考え方はどれか。

- ア．ウイルス感染症なら種類を問わず必ず有効である。
- イ．症状があれば感染の有無を問わず常に投与する。
- ウ．患者のアレルギー歴は確認しなくてよい。
- エ．細菌感染症に対して病原体・感染部位・患者背景を考慮して適正に使用する。

答え・解説 正答：エ

- ア：細菌を標的とする抗菌薬はウイルス感染症に通常は無効である。
- イ：不必要な抗菌薬使用は有害事象や耐性化につながる。
- ウ：抗菌薬ではアレルギー歴の確認が重要である。
- エ：抗菌薬は細菌感染を対象とし、適応・薬剤選択・患者因子を考えて使用する。

総合解説：抗菌薬は細菌感染を対象とし、適応・薬剤選択・患者因子を考えて使用する。感染症状があるだけで一律に抗菌薬を使うのではなく、病態を評価する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0077 生体と薬物 > 主要薬物・副作用・相互作用 | 難易度：標準

ワルファリン服用中の患者を歯科処置前に確認した。最も適切な考え方はどれか。

- ア．出血リスクやINR、処置内容を評価し、自己判断で休薬させず必要に応じ処方医と連携する。
- イ．服用中であれば必ずその場で永久中止させる。
- ウ．ワルファリンは出血に全く影響しないため薬歴確認は不要である。
- エ．INRは抗凝固作用と無関係である。

答え・解説 正答：ア

ア：ワルファリンはビタミンK依存性凝固因子を低下させるため、歯科処置では出血リスクと血栓リスクの両方を考える。
イ：抗凝固薬の中断は血栓塞栓リスクもあり、自己判断で行うべきではない。
ウ：ワルファリンは凝固能を低下させ、出血リスク評価が必要である。
エ：ワルファリン療法ではINRが抗凝固強度の評価に用いられる。

総合解説：ワルファリンはビタミンK依存性凝固因子を低下させるため、歯科処置では出血リスクと血栓リスクの両方を考える。薬剤を一律に中止せず、処置侵襲や検査値を踏まえて連携する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0078 生体と薬物 > 主要薬物・副作用・相互作用 | 難易度：標準

ある薬物Aが薬物Bを代謝するCYP酵素を強く阻害した。Bの投与量が同じ場合に起こり得る変化はどれか。

- ア．Bの代謝が低下し、血中濃度が上昇することがある。
- イ．Bの代謝が必ず促進され、血中濃度が低下する。
- ウ．Bが薬理作用を完全に失うことが必ず起こる。
- エ．CYP阻害は薬物相互作用に関係しない。

答え・解説 正答：ア

ア：代謝酵素阻害により基質薬物の消失が遅れると、血中濃度や有害事象が増えることがある。
イ：酵素阻害では通常、基質薬物の代謝は低下する方向に働く。
ウ：相互作用の程度は薬物ごとに異なる。
エ：CYP阻害は重要な薬物相互作用機序の一つである。

総合解説：代謝酵素阻害により基質薬物の消失が遅れると、血中濃度や有害事象が増えることがある。阻害は濃度上昇方向、誘導は濃度低下方向を基本に考えるが、活性代謝物では例外もある。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0079 生体と薬物 > 主要薬物・副作用・相互作用 | 難易度：応用

複数の抗コリン作用をもつ薬を服用している高齢患者が口腔乾燥を訴えた。最も適切な説明はどれか。

- ア．抗コリン作用は唾液分泌を必ず増加させる。
- イ．薬剤性に唾液分泌が低下し、口腔乾燥感が生じることがある。
- ウ．口腔乾燥は薬剤とは無関係である。
- エ．口腔乾燥があれば必ず唾液腺腫瘍である。

答え・解説 正答：イ

- ア：抗ムスカリン作用は唾液分泌を低下させる。
- イ：抗コリン作用をもつ薬剤を含め、多くの薬剤が唾液分泌低下や口腔乾燥を起こし得る。
- ウ：薬剤は口腔乾燥の一般的な原因の一つである。
- エ：口腔乾燥には多様な原因がある。

総合解説：抗コリン作用をもつ薬剤を含め、多くの薬剤が唾液分泌低下や口腔乾燥を起こし得る。口腔乾燥では薬歴確認が重要で、自己判断で薬剤中止を勧めず医科と連携する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0080 生体と薬物 > 主要薬物・副作用・相互作用 | 難易度：応用

複数の処方薬と市販薬を使用している患者の歯科診療で、薬物相互作用を防ぐため最も重要なのはどれか。

- ア．歯科で処方する薬だけ確認すれば十分である。
- イ．処方薬・市販薬・サプリメントを含む最新の薬剤情報を確認し、必要時に処方医・薬剤師と連携する。
- ウ．市販薬やサプリメントは相互作用を起こさない。
- エ．患者の腎・肝機能は薬物有害事象に影響しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：併用薬全体が相互作用に関与するため、包括的な薬歴が必要である。
- イ：相互作用評価には処方薬だけでなくOTC、サプリメント、臓器機能、アレルギー歴などを含む包括的な薬歴確認が必要である。
- ウ：市販薬やサプリメントも相互作用することがある。
- エ：腎・肝機能は薬物の代謝・排泄と有害事象リスクに影響する。

総合解説：相互作用評価には処方薬だけでなくOTC、サプリメント、臓器機能、アレルギー歴などを含む包括的な薬歴確認が必要である。薬の名称・用量・服用目的・最終服用時刻を具体的に確認すると安全性が高まる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0081 生体と薬物 > 局所麻酔薬・血管収縮薬・薬品管理 | 難易度：基礎

局所麻酔薬の主要な作用機序はどれか。

- ア．電位依存性Na⁺チャンネルを遮断し、活動電位の伝導を抑制する。
- イ．COXを阻害してプロスタグランジン産生を低下させる。
- ウ．ビタミンK依存性凝固因子の合成を抑制する。
- エ．細菌の細胞壁合成を阻害する。

答え・解説 正答：ア

ア：局所麻酔薬は神経膜の電位依存性Naチャンネルを遮断し、脱分極と活動電位伝導を抑える。
イ：これはNSAIDsの主要作用機序である。
ウ：これはワルファリンの作用である。
エ：これは一部の抗菌薬の作用である。

総合解説：局所麻酔薬は神経膜の電位依存性Naチャンネルを遮断し、脱分極と活動電位伝導を抑える。局所麻酔は意識を保ったまま局所の神経伝導を可逆的に遮断する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0082 生体と薬物 > 局所麻酔薬・血管収縮薬・薬品管理 | 難易度：基礎

アミド型局所麻酔薬はどれか。

- ア．プロカイン
- イ．リドカイン
- ウ．ベンゾカイン
- エ．テトラカイン

答え・解説 正答：イ

ア：プロカインはエステル型局所麻酔薬である。
イ：リドカイン、メピバカイン、プビバカインなどはアミド型、プロカインやベンゾカインなどはエステル型である。
ウ：ベンゾカインはエステル型局所麻酔薬である。
エ：テトラカインはエステル型局所麻酔薬である。

総合解説：リドカイン、メピバカイン、プビバカインなどはアミド型、プロカインやベンゾカインなどはエステル型である。局所麻酔薬の型は代謝経路やアレルギーとの関連で重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0083 生体と薬物 > 局所麻酔薬・血管収縮薬・薬品管理 | 難易度：基礎

局所麻酔薬全身毒性（LAST）のリスクが高まる状況として最も適切なのはどれか。

- ア．大量の局所麻酔薬が短時間に全身循環へ入る。
- イ．適切な量が局所組織にとどまり全身吸収が少ない。
- ウ．局所麻酔薬を使用していない。
- エ．投与薬の濃度と総量を確認している。

答え・解説 正答：ア

ア：局所麻酔薬が高濃度で全身循環に入ると中枢神経系・心血管系の毒性が生じ得る。
イ：これは全身毒性リスクを低くする方向である。
ウ：薬剤曝露がなければ局所麻酔薬によるLASTは起こらない。
エ：適切な薬剤管理は安全性を高める。

総合解説：局所麻酔薬が高濃度で全身循環に入ると中枢神経系・心血管系の毒性が生じ得る。安全性は薬剤の種類だけでなく総量、投与部位、血流、患者背景にも左右される。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0084 生体と薬物 > 局所麻酔薬・血管収縮薬・薬品管理 | 難易度：標準

局所麻酔薬にエピネフリンなどの血管収縮薬を併用する主な目的として適切なのはどれか。

- ア．局所血流を増やして麻酔薬を直ちに全身へ流す。
- イ．局所麻酔薬を化学的に無効化する。
- ウ．局所血流を減らして麻酔薬の全身吸収を遅らせ、作用時間を延長する。
- エ．神経のNaチャンネルを永久に破壊する。

答え・解説 正答：ウ

ア：血管収縮薬は局所血流を低下させる。
イ：併用目的は麻酔薬の作用を無効化することではない。
ウ：血管収縮により局所麻酔薬の吸収が遅くなり、局所濃度の維持と作用時間延長、出血抑制に寄与する。
エ：局所麻酔作用は可逆的である。

総合解説：血管収縮により局所麻酔薬の吸収が遅くなり、局所濃度の維持と作用時間延長、出血抑制に寄与する。血管収縮薬には循環器系作用もあるため患者背景に応じた判断が必要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0085 生体と薬物 > 局所麻酔薬・血管収縮薬・薬品管理 | 難易度：標準

局所麻酔薬のアレルギーについて正しいのはどれか。

- ア．アミド型とエステル型は必ず完全な交差アレルギーを示す。
- イ．エステル型ではPABA類似代謝物が関与し、アレルギーが問題になることがある。
- ウ．局所麻酔薬ではアレルギー反応は絶対に起こらない。
- エ．エステル型は一切代謝されないためアレルギーと無関係である。

答え・解説 正答：イ

- ア：両群間の交差過敏性は一般に高くなく、原因薬や添加物の確認が重要である。
- イ：局所麻酔薬のアレルギー歴では、薬剤型だけでなく保存料等も含めて原因を確認する必要がある。
- ウ：まれではあるがアレルギー反応は報告される。
- エ：エステル型は加水分解され、PABA関連代謝物が過敏反応に関与し得る。

総合解説：局所麻酔薬のアレルギー歴では、薬剤型だけでなく保存料等も含めて原因を確認する必要がある。局所麻酔での気分不良を全てアレルギーと決めつけず、毒性や血管迷走神経反射も鑑別する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0086 生体と薬物 > 局所麻酔薬・血管収縮薬・薬品管理 | 難易度：標準

エピネフリンの α 1受容体刺激で主に生じる作用はどれか。

- ア．心拍数低下だけ
- イ．気管支収縮
- ウ．血管平滑筋収縮
- エ．骨格筋のNaチャンネル遮断

答え・解説 正答：ウ

- ア：心臓では β 1作用により心拍数・収縮力が増加する方向の作用がある。
- イ： β 2刺激では気管支拡張が生じる。
- ウ：エピネフリンは α 1刺激で血管収縮、 β 1刺激で心拍数・心収縮力増加、 β 2刺激で気管支拡張などを示す。
- エ：これは局所麻酔薬の作用であり、エピネフリンの α 1作用ではない。

総合解説：エピネフリンは α 1刺激で血管収縮、 β 1刺激で心拍数・心収縮力増加、 β 2刺激で気管支拡張などを示す。歯科用血管収縮薬の作用を受容体レベルで理解すると有害反応の予測につながる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0087 生体と薬物 > 局所麻酔薬・血管収縮薬・薬品管理 | 難易度：標準

アミド型局所麻酔薬の代謝について一般に正しいのはどれか。

- ア．主として血漿コリンエステラーゼで速やかに加水分解される。
- イ．代謝を全く受けず永久に体内へ残る。
- ウ．口腔内細菌だけが代謝する。
- エ．主として肝臓で代謝される。

答え・解説 正答：エ

- ア：これはエステル型局所麻酔薬に多い代謝様式である。
- イ：局所麻酔薬も代謝・排泄を受ける。
- ウ：主要な代謝経路ではない。
- エ：アミド型は主に肝代謝、エステル型は主に血漿コリンエステラーゼによる加水分解という違いがある。

総合解説：アミド型は主に肝代謝、エステル型は主に血漿コリンエステラーゼによる加水分解という違いがある。重度肝機能障害ではアミド型局所麻酔薬の代謝低下に注意が必要となる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0088 生体と薬物 > 局所麻酔薬・血管収縮薬・薬品管理 | 難易度：標準

局所麻酔薬投与後に中枢神経系症状と不整脈・循環抑制が出現した。最も疑うべき病態はどれか。

- ア．局所麻酔薬全身毒性
- イ．生理的な歯の萌出
- ウ．単純な歯垢形成
- エ．一次創傷治癒

答え・解説 正答：ア

- ア：高い局所麻酔薬血中濃度は中枢神経系と心血管系に毒性を示し、重症例ではけいれんや循環虚脱に至り得る。
- イ：薬剤投与直後の神経・循環症状とは無関係である。
- ウ：全身性神経・循環症状を説明できない。
- エ：創傷治癒の様式であり急性薬物毒性ではない。

総合解説：高い局所麻酔薬血中濃度は中枢神経系と心血管系に毒性を示し、重症例ではけいれんや循環虚脱に至り得る。投与後の急変では局所麻酔薬毒性、アレルギー、血管迷走神経反射などを鑑別する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0089 生体と薬物 > 局所麻酔薬・血管収縮薬・薬品管理 | 難易度：応用

強い炎症がある酸性組織で局所麻酔が効きにくくなる理由として最も適切なのはどれか。

- ア．局所麻酔薬が酸性環境で全て永久的に共有結合するため
- イ．非イオン型の局所麻酔薬が減り、神経膜を通過しにくくなるため
- ウ．酸性になるとNaチャンネルが完全に消失するため
- エ．炎症部では血流が常にゼロになり薬物が届かないため

答え・解説 正答：イ

- ア：主因は薬物のイオン化平衡変化である。
- イ：多くの局所麻酔薬は弱塩基性で、酸性環境ではイオン型が増えて脂質膜を通過する非イオン型が減る。
- ウ：Naチャンネルが消失するわけではない。
- エ：血流が完全にゼロになることが主因ではない。

総合解説：多くの局所麻酔薬は弱塩基性で、酸性環境ではイオン型が増えて脂質膜を通過する非イオン型が減る。局所pH、pKa、イオン化状態が麻酔発現に影響する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0090 生体と薬物 > 局所麻酔薬・血管収縮薬・薬品管理 | 難易度：応用

歯科診療で薬剤を安全に使用するための対応として最も適切なのはどれか。

- ア．ラベルが読めなくても容器の色だけで薬剤を判断する。
- イ．有効期限を過ぎた薬剤でも外観が同じなら使用する。
- ウ．患者ごとの薬歴やアレルギー歴を確認しない。
- エ．使用前に薬剤名・濃度・有効期限・患者のアレルギー歴や併用薬を確認する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤薬防止のため薬剤名・濃度等を明確に確認する必要がある。
- イ：期限切れ薬剤は品質・安全性が担保されないため使用しない。
- ウ：薬物有害事象・相互作用・アレルギー回避のため確認が必要である。
- エ：薬剤安全管理は正しい薬剤・濃度・期限の確認と、患者側の禁忌・アレルギー・相互作用評価を組み合わせで行う。

総合解説：薬剤安全管理は正しい薬剤・濃度・期限の確認と、患者側の禁忌・アレルギー・相互作用評価を組み合わせで行う。薬剤名が似ている製剤や濃度違いもあるため、投与前の複数項目確認を習慣化する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0091 歯・口腔の健康と予防 > 口腔清掃・ブラークコントロール | 難易度：基礎

デンタルブラークの説明として最も適切なのはどれか。

- ア．歯面などに付着した微生物を主体とするバイオフィルムである。
- イ．唾液中の無機塩だけが沈着した無菌性物質である。
- ウ．食物残渣と完全に同義である。
- エ．歯石と同じく歯ブラシでは一切変化しない硬組織である。

答え・解説 正答：ア

ア：デンタルブラークは歯面に付着する微生物性バイオフィルムで、う蝕や歯周病に重要である。
イ：ブラークは微生物を主体とするバイオフィルムであり、無機塩だけからなるものではない。
ウ：食物残渣とブラークは同義ではない。
エ：ブラークは軟らかい付着物で、機械的清掃により除去できる。

総合解説：デンタルブラークは歯面に付着する微生物性バイオフィルムで、う蝕や歯周病に重要である。ブラーク、食物残渣、歯石を区別する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0092 歯・口腔の健康と予防 > 口腔清掃・ブラークコントロール | 難易度：基礎

歯石について正しいのはどれか。

- ア．形成直後から常に無菌である。
- イ．ブラークが石灰化した硬い沈着物で、通常のセルフブラッシングだけでは除去が困難である。
- ウ．歯磨剤で軽く磨けば必ず完全に除去できる。
- エ．歯肉炎を予防するため積極的に残すべきである。

答え・解説 正答：イ

ア：歯石表面にもブラークは付着し得る。
イ：歯石は石灰化したブラークであり、専門的な除去が必要となる。
ウ：歯石は硬く、専門的除去が必要となる。
エ：歯石はブラーク保持因子となり得るため必要に応じて除去する。

総合解説：歯石は石灰化したブラークであり、専門的な除去が必要となる。セルフケアで除去するブラークと歯石を分けて考える。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0093 歯・口腔の健康と予防 > 口腔清掃・ブラークコントロール | 難易度：基礎

通常の歯ブラシによる清掃だけではブラーク除去が不十分になりやすい部位はどれか。

- ア．毛先が十分届く頬側平滑面
- イ．歯と歯の間の隣接面
- ウ．抜歯され歯面が存在しない部位
- エ．義歯を外した後の義歯床粘膜だけ

答え・解説 正答：イ

- ア：毛先が届く平滑面は歯ブラシで清掃しやすい。
- イ：歯ブラシは多くの歯面に有効だが、隣接面は毛先が入りにくいため補助用具を併用する。
- ウ：歯面が存在しない部位は歯面ブラーク清掃の対象ではない。
- エ：質問は歯面のブラーク除去部位についてである。

総合解説：歯ブラシは多くの歯面に有効だが、隣接面は毛先が入りにくいため補助用具を併用する。歯間部は補助的清掃用具の代表的適応部位である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0094 歯・口腔の健康と予防 > 口腔清掃・ブラークコントロール | 難易度：標準

隣接面の接触が緊密で、歯間ブラシが無理なく挿入できない部位のセルフケアとして適切なのはどれか。

- ア．太い歯間ブラシを抵抗が強くても押し込む。
- イ．歯間部は清掃せず咬合面だけ磨く。
- ウ．爪で隣接面をこする。
- エ．デンタルフロスを歯面に沿わせて使用する。

答え・解説 正答：エ

- ア：無理な挿入は歯肉損傷につながる。
- イ：歯ブラシだけでは歯間部清掃が不十分になりやすい。
- ウ：安全な清掃方法ではない。
- エ：狭い歯間部ではデンタルフロスが適し、歯面に沿わせてブラークを除去する。

総合解説：狭い歯間部ではデンタルフロスが適し、歯面に沿わせてブラークを除去する。歯間空隙に応じてフロスと歯間ブラシを使い分ける。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0095 歯・口腔の健康と予防 > 口腔清掃・ブラークコントロール | 難易度：標準

歯間ブラシの使用法として最も適切なのはどれか。

- ア．歯間空隙に関係なく最大径を選ぶ。
- イ．歯間空隙に合うサイズを選び、無理な力を加えずに挿入して清掃する。
- ウ．入らない部位ほど強く押し込む。
- エ．出血した部位は原因評価せず永久に清掃しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：過大なサイズは歯肉損傷の原因となる。
- イ：歯間ブラシは空隙に合うサイズを選び、無理なく操作する。
- ウ：狭い部位では別の用具を選ぶ。
- エ：出血の原因を評価し、適切な清掃法を指導する。

総合解説：歯間ブラシは空隙に合うサイズを選び、無理なく操作する。用具の種類だけでなくサイズ適合性も重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0096 歯・口腔の健康と予防 > 口腔清掃・ブラークコントロール | 難易度：標準

ブラーク染色剤を保健指導で用いる主な目的はどれか。

- ア．歯石を化学的に溶解する。
- イ．う蝕を即座に修復する。
- ウ．肉眼では分かりにくいブラーク付着部位を可視化し、清掃状態の評価や指導に利用する。
- エ．歯周ポケットを永久に浅くする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：染色剤は歯石除去剤ではない。
- イ：歯質修復作用はない。
- ウ：染め出しはブラーク付着分布を視覚化し、磨き残しの認識に役立つ。
- エ：治療そのものではない。

総合解説：染め出しはブラーク付着分布を視覚化し、磨き残しの認識に役立つ。評価結果をセルフケア改善につなげる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0097 歯・口腔の健康と予防 > 口腔清掃・ブラークコントロール | 難易度：標準

歯周病予防におけるセルフケアの基本として最も適切なのはどれか。

- ア．歯肉出血がなければブラークを残してよい。
- イ．歯石は家庭用歯ブラシだけで確実に除去できる。
- ウ．清掃用具を歯肉へ強く押し付けるほどよい。
- エ．歯肉縁付近を含む歯面のブラークを、歯ブラシや補助用具で日常的に除去する。

答え・解説 正答：エ

- ア：出血の有無だけでブラーク除去不要とは判断できない。
- イ：歯石は専門的除去が必要である。
- ウ：適切な方法と力で清掃する。
- エ：歯周病の直接的原因であるブラークを継続的に除去することが基本となる。

総合解説：歯周病の直接的原因であるブラークを継続的に除去することが基本となる。セルフケアと専門的ケアを補完させる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0098 歯・口腔の健康と予防 > 口腔清掃・ブラークコントロール | 難易度：標準

口腔清掃指導を個別化する際に最も重視すべき情報はどれか。

- ア．年齢だけで全員に同じ方法を固定する。
- イ．ブラーク付着部位、歯列・補綴物、歯間空隙、手指機能など本人の口腔・生活状況
- ウ．磨き残しを確認せず人気の用具を選ぶ。
- エ．本人の理解や継続可能性を考えない。

答え・解説 正答：イ

- ア：同年齢でも口腔内形態や能力は異なる。
- イ：効果的なブラークコントロールには個別化が必要である。
- ウ：口腔内状況と課題に基づき選ぶ。
- エ：継続可能性も重要である。

総合解説：効果的なブラークコントロールには個別化が必要である。実行・継続できる方法を選ぶ。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0099 歯・口腔の健康と予防 > 口腔清掃・ブラークコントロール | 難易度：応用

歯周組織検査で複数部位にBOPがみられ、ブラーク付着も多かった。初期対応として最も適切なのはどれか。

- ア．出血部位とブラーク付着を確認し、適切なセルフケアと必要な歯周管理につなげる。
- イ．出血部位の清掃を一切中止する。
- ウ．BOPだけで歯周炎の確定診断と重症度を全て決める。
- エ．ブラーク付着とは無関係なので指導しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：BOPは炎症指標の一つで、ブラーク付着状況と合わせてセルフケア改善に活用する。
- イ：炎症性出血では原因となるブラーク管理が必要である。
- ウ：BOPは炎症指標の一つである。
- エ：ブラークは歯肉炎・歯周病の重要な原因である。

総合解説：BOPは炎症指標の一つで、ブラーク付着状況と合わせてセルフケア改善に活用する。検査値を原因と行動改善に結び付ける。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0100 歯・口腔の健康と予防 > 口腔清掃・ブラークコントロール | 難易度：応用

歯周治療後で歯間空隙が広い部位と、接触点が緊密な部位が同一口腔内にある。セルフケア指導として最も適切なのはどれか。

- ア．全ての部位に同じ太さの歯間ブラシを強制使用する。
- イ．歯間部は歯ブラシだけで必ず完全清掃できると説明する。
- ウ．広い歯間部には適合する歯間ブラシ、緊密な隣接面にはデンタルフロスを使い分ける。
- エ．補助用具を使わず洗口液だけに置き換える。

答え・解説 正答：ウ

- ア：部位形態に応じた用具選択が必要である。
- イ：歯ブラシだけでは不十分になりやすい。
- ウ：歯間部清掃は形態に応じて用具を使い分ける。
- エ：機械的歯間清掃を一律に置換するのは適切でない。

総合解説：歯間部清掃は形態に応じて用具を使い分ける。一人の患者でも部位ごとに適切な用具は異なる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0101 歯・口腔の健康と予防 > う蝕・歯周病等の予防 | 難易度：基礎

う蝕の成立に直接関与する組合せとして最も適切なのはどれか。

- ア．血小板数と骨格筋量だけ
- イ．歯石の量だけ
- ウ．遺伝要因だけで必ず発症する。
- エ．プラーク細菌、発酵性糖質、歯質、時間などの相互作用

答え・解説 正答：エ

- ア：主要病因ではない。
- イ：歯石だけでは説明できない。
- ウ：う蝕は多因子性である。
- エ：う蝕は細菌が糖質から酸を産生し、脱灰が再石灰化を上回ることで行われる。

総合解説：う蝕は細菌が糖質から酸を産生し、脱灰が再石灰化を上回ることで行われる。多因子性疾患として理解する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0102 歯・口腔の健康と予防 > う蝕・歯周病等の予防 | 難易度：基礎

う蝕予防の観点から特に注意すべき食習慣はどれか。

- ア．食後に水を飲むことだけ
- イ．間食を減らし食事回数を整える。
- ウ．糖質を含まない食品を定期的に摂る。
- エ．発酵性糖質を含む飲食物を一日に何度も頻回摂取する。

答え・解説 正答：エ

- ア：中心的リスクではない。
- イ：糖質曝露頻度を減らす方向である。
- ウ：発酵性糖質の頻度が重要である。
- エ：糖質摂取のたびにプラークpHが低下するため、頻回摂取では再石灰化時間が不足しやすい。

総合解説：糖質摂取のたびにプラークpHが低下するため、頻回摂取では再石灰化時間が不足しやすい。総量だけでなく頻度も重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0103 歯・口腔の健康と予防 > う蝕・歯周病等の予防 | 難易度：基礎

唾液分泌低下がう蝕リスクを高める主な理由はどれか。

- ア．唾液が減るとブラーク細菌が完全消失するため
- イ．唾液が減るほどフッ化物作用が必ず増強するため
- ウ．酸の緩衝・洗浄・再石灰化に関わる作用が低下するため
- エ．唾液はう蝕と無関係であるため

答え・解説 正答：ウ

- ア：細菌は消失しない。
- イ：そのような関係ではない。
- ウ：唾液は酸緩衝、カルシウム・リン酸供給、洗浄に関与する。
- エ：唾液は重要な防御因子である。

総合解説：唾液は酸緩衝、カルシウム・リン酸供給、洗浄に関与する。口腔乾燥ではう蝕リスク評価が重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0104 歯・口腔の健康と予防 > う蝕・歯周病等の予防 | 難易度：標準

実質欠損がない初期エナメル質う蝕に対する考え方として最も適切なのはどれか。

- ア．発見時点で必ず大量の健全歯質を削除する。
- イ．生活習慣は進行に影響しない。
- ウ．ブラーク・糖質曝露を減らしフッ化物を利用することで、病変の停止や再石灰化を図れる場合がある。
- エ．フッ化物は脱灰を促進する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：初期病変では非侵襲的管理が選択され得る。
- イ：糖質曝露やブラーク環境は影響する。
- ウ：非実質欠損性病変では口腔環境改善で進行停止・再石灰化を目指す。
- エ：フッ化物は脱灰抑制・再石灰化促進に働く。

総合解説：非実質欠損性病変では口腔環境改善で進行停止・再石灰化を目指す。病変活動性とリスクを評価する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0105 歯・口腔の健康と予防 > う蝕・歯周病等の予防 | 難易度：標準

小窩裂溝シーラントの主なう蝕予防効果はどれか。

- ア．歯周ポケット内の歯石を溶解する。
- イ．失われた歯槽骨を再生する。
- ウ．全歯面のう蝕リスクを永久にゼロにする。
- エ．臼歯の深い小窩裂溝を封鎖し、ブラークや基質が停滞しにくくする。

答え・解説 正答：エ

- ア：歯石除去法ではない。
- イ：歯周再生療法ではない。
- ウ：他の予防管理も必要である。
- エ：シーラントは小窩裂溝を物理的に封鎖してう蝕を予防する。

総合解説：シーラントは小窩裂溝を物理的に封鎖してう蝕を予防する。小窩裂溝は追加予防の重要部位である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0106 歯・口腔の健康と予防 > う蝕・歯周病等の予防 | 難易度：標準

歯周病の発症・進行予防で最も基本となるのはどれか。

- ア．歯肉出血があるほど清掃を中止する。
- イ．糖尿病や喫煙を評価しない。
- ウ．歯肉縁周囲のブラークを継続的にコントロールし、必要に応じて歯石等を専門的に除去する。
- エ．歯石をセルフケアだけで完全除去する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：ブラーク管理が必要である。
- イ：リスク因子も重要である。
- ウ：歯周病予防の中心は機械的ブラークコントロールとリスク因子管理である。
- エ：専門的除去が必要である。

総合解説：歯周病予防の中心は機械的ブラークコントロールとリスク因子管理である。原因除去とリスク管理を組み合わせる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0107 歯・口腔の健康と予防 > う蝕・歯周病等の予防 | 難易度：標準

喫煙者の歯周病について正しいのはどれか。

- ア．喫煙で歯周病リスクは低下する。
- イ．非喫煙者より歯周病が進行しやすく、治療反応も不良になりやすい。
- ウ．喫煙者では出血が必ず増え炎症を見逃さない。
- エ．禁煙しても利益はない。

答え・解説 正答：イ

- ア：喫煙は重要なリスク因子である。
- イ：喫煙は歯周病の発症・進行、治療反応に悪影響を及ぼす。
- ウ：血管収縮で出血が目立ちにくいことがある。
- エ：禁煙はリスク低下に有益である。

総合解説：喫煙は歯周病の発症・進行、治療反応に悪影響を及ぼす。禁煙支援も歯周病予防の一部である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0108 歯・口腔の健康と予防 > う蝕・歯周病等の予防 | 難易度：標準

糖尿病と歯周病の関係として最も適切なのはどれか。

- ア．両者に関連は全くない。
- イ．歯周病が必ず1型糖尿病を発症させる。
- ウ．糖尿病は歯周病を悪化させ得て、歯周治療が血糖コントロール改善に寄与する可能性も示されている。
- エ．糖尿病患者では歯周管理を少なくしてよい。

答え・解説 正答：ウ

- ア：関連が示されている。
- イ：単純な必然因果ではない。
- ウ：糖尿病と歯周病には双方向的関連があり、医科歯科連携が重要である。
- エ：継続的管理が重要である。

総合解説：糖尿病と歯周病には双方向的関連があり、医科歯科連携が重要である。口腔疾患予防を全身状態から切り離さない。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0109 歯・口腔の健康と予防 > う蝕・歯周病等の予防 | 難易度：応用

二次予防に最も該当する歯科保健活動はどれか。

- ア．フッ化物配合歯磨剤で発症自体を防ぐ。
- イ．補綴・リハビリで機能を回復する。
- ウ．歯科健診で早期のう蝕・歯周病を発見し、早期受診につなげる。
- エ．発症前に食生活を改善する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：一次予防である。
- イ：三次予防に近い。
- ウ：二次予防は疾病を早期発見し、早期治療・進行防止につなげる。
- エ：一次予防である。

総合解説：二次予防は疾病を早期発見し、早期治療・進行防止につなげる。一次・二次・三次予防を区別する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0110 歯・口腔の健康と予防 > う蝕・歯周病等の予防 | 難易度：応用

口腔乾燥、根面露出、甘味飲料の頻回摂取がある高齢者のう蝕予防として最も適切なのはどれか。

- ア．歯みがきだけで他のリスクは無視する。
- イ．根面露出があるためフッ化物は使用しない。
- ウ．甘味飲料の頻度は影響しない。
- エ．フッ化物利用、糖質摂取頻度の改善、ブラークコントロール、定期的なリスク評価を組み合わせる。

答え・解説 正答：エ

- ア：う蝕は多因子性である。
- イ：根面う蝕予防にも有用である。
- ウ：頻回糖質曝露はリスクを高める。
- エ：高リスク者では複数のリスク因子へ同時に介入する。

総合解説：高リスク者では複数のリスク因子へ同時に介入する。予防計画は個別化する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0111 歯・口腔の健康と予防 > フッ化物・その他の歯科疾患予防 | 難易度：基礎

フッ化物のう蝕予防作用として正しいのはどれか。

- ア．歯石を機械的に削り取る。
- イ．歯周ポケットを外科的に切除する。
- ウ．脱灰を抑え、再石灰化を促進し、プラーク細菌の酸産生を抑える。
- エ．唾液を完全に無くす。

答え・解説 正答：ウ

- ア：スケーリング作用ではない。
- イ：外科作用ではない。
- ウ：フッ化物は歯質の耐酸性向上、再石灰化促進、酸産生抑制に働く。
- エ：唾液を消失させる作用ではない。

総合解説：フッ化物は歯質の耐酸性向上、再石灰化促進、酸産生抑制に働く。局所作用を理解する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0112 歯・口腔の健康と予防 > フッ化物・その他の歯科疾患予防 | 難易度：基礎

6歳から成人・高齢者のフッ化物配合歯磨剤の推奨使用法に合うのはどれか。

- ア．1,400～1,500ppmFを歯ブラシ全体（約1.5～2cm）に用いる。
- イ．100ppmFを米粒程度だけ用いる。
- ウ．500ppmFを1mm未満だけ用いる。
- エ．フッ化物を含まない歯磨剤のみ使う。

答え・解説 正答：ア

- ア：6歳以上では1,400～1,500ppmFを歯ブラシ全体程度使用する。
- イ：推奨より低い。
- ウ：6歳以上の推奨ではない。
- エ：う蝕予防にはフッ化物配合歯磨剤が推奨される。

総合解説：6歳以上では1,400～1,500ppmFを歯ブラシ全体程度使用する。年齢別濃度と量を正確に覚える。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0113 歯・口腔の健康と予防 > フッ化物・その他の歯科疾患予防 | 難易度：基礎

3～5歳児のフッ化物配合歯磨剤の使用法として適切なのはどれか。

- ア．1,400～1,500ppmFを歯ブラシ全体に使用する。
- イ．900～1,000ppmFをグリーンピース程度（約5mm）使用する。
- ウ．100ppmFを歯ブラシ2本分使う。
- エ．濃度や量を確認せず大量使用する。

答え・解説 正答：イ

- ア：6歳以上の推奨である。
- イ：3～5歳では900～1,000ppmFを約5mm用いる。
- ウ：推奨ではない。
- エ：適正量管理が必要である。

総合解説：3～5歳では900～1,000ppmFを約5mm用いる。幼児は保護者が適量を管理する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0114 歯・口腔の健康と予防 > フッ化物・その他の歯科疾患予防 | 難易度：標準

歯が生えてから2歳までのフッ化物配合歯磨剤の使用法として適切なのはどれか。

- ア．900～1,000ppmFを米粒程度（約1～2mm）使用する。
- イ．1,500ppmFを歯ブラシ全体に塗布する。
- ウ．濃度に関係なく多量に出す。
- エ．乳歯萌出後も絶対に使用しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：萌出後～2歳では900～1,000ppmFを米粒程度使用する。
- イ：使用量として過大である。
- ウ：適正量を守る。
- エ：萌出後から適正量で使用できる。

総合解説：萌出後～2歳では900～1,000ppmFを米粒程度使用する。低年齢ほど量管理が重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0115 歯・口腔の健康と予防 > フッ化物・その他の歯科疾患予防 | 難易度：標準

3歳以上でフッ化物配合歯磨剤を使用した後の方法として推奨に合うのはどれか。

- ア．歯磨剤を軽く吐き出し、うがいする場合は少量の水で1回程度にする。
- イ．大量の水で10回以上すすぐ。
- ウ．毎回意図的に飲み込む。
- エ．洗剤で歯面を洗い流す。

答え・解説 正答：ア

- ア：軽く吐き出し、すすぐ場合も少量の水で1回とする。
- イ：口腔内フッ化物が減る。
- ウ：意図的に飲み込まない。
- エ：推奨されない。

総合解説：軽く吐き出し、すすぐ場合も少量の水で1回とする。使用後の行動も効果に影響する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0116 歯・口腔の健康と予防 > フッ化物・その他の歯科疾患予防 | 難易度：標準

フッ化物洗口について厚生労働省の基本的な考え方に合うのはどれか。

- ア．出生直後から全乳児に洗口させる。
- イ．4歳未満は適切な洗口が難しく誤飲リスクがあるため対象としない。
- ウ．成人・高齢者には一切利用できない。
- エ．洗口液は必ず飲み込む。

答え・解説 正答：イ

- ア：乳児は洗口できない。
- イ：フッ化物洗口は特に4～14歳で有効性が大きく、4歳未満は対象外とされる。
- ウ：根面う蝕予防等にも利用される。
- エ：吐き出して使用する。

総合解説：フッ化物洗口は特に4～14歳で有効性が大きく、4歳未満は対象外とされる。洗口・吐出能力を確認する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0117 歯・口腔の健康と予防 > フッ化物・その他の歯科疾患予防 | 難易度：標準

フッ化物洗口の代表的な方法と濃度の組合せとして正しいのはどれか。

- ア．週1回法 ― 約900ppmのフッ化ナトリウム洗口液
- イ．週1回法 ― 約10ppm
- ウ．毎日法 ― 約9,000ppm
- エ．毎日法 ― フッ化物を含まない水だけ

答え・解説 正答：ア

ア：毎日法は約250または450ppm、週1回法は約900ppmが代表的である。
イ：代表濃度より低い。
ウ：毎日法は約250または450ppmである。
エ：フッ化物洗口ではない。

総合解説：毎日法は約250または450ppm、週1回法は約900ppmが代表的である。 頻度と濃度を対応させる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0118 歯・口腔の健康と予防 > フッ化物・その他の歯科疾患予防 | 難易度：標準

高齢者の根面う蝕予防に関するフッ化物利用として正しいのはどれか。

- ア．永久歯萌出後は予防効果がない。
- イ．根面露出ではフッ化物禁忌である。
- ウ．高齢者ではう蝕が起こらない。
- エ．成人・高齢者でも生涯にわたりフッ化物を歯面に作用させることが有効である。

答え・解説 正答：エ

ア：萌出後の局所作用が重要である。
イ：根面う蝕予防に有用である。
ウ：根面う蝕等が問題となる。
エ：フッ化物局所応用は成人・高齢者の根面う蝕予防にも有用である。

総合解説：フッ化物局所応用は成人・高齢者の根面う蝕予防にも有用である。 生涯を通じた応用を理解する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0119 歯・口腔の健康と予防 > フッ化物・その他の歯科疾患予防 | 難易度：応用

歯のフッ素症を予防する観点から最も適切なのはどれか。

- ア．成人期の適量使用で必ず重度フッ素症になる。
- イ．使用量は多いほど安全性が高い。
- ウ．幼児期、とくに歯の形成期にフッ化物の過剰摂取を避け、年齢に合った歯磨剤量を守る。
- エ．幼児が歯磨剤を飲み込んでも量管理不要である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：主に歯の形成期の過剰摂取と関係する。
- イ：適正量を守る。
- ウ：歯のフッ素症リスクは幼児期に集中する。
- エ：過量摂取を避ける。

総合解説：歯のフッ素症リスクは幼児期に集中する。適正濃度・適正量で効果と安全性を両立する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0120 歯・口腔の健康と予防 > フッ化物・その他の歯科疾患予防 | 難易度：応用

萌出直後の第一大臼歯に深い小窩裂溝があり、う蝕リスクが高い学童への予防計画として最も適切なのはどれか。

- ア．フッ化物配合歯磨剤などのフッ化物利用に加え、適応を評価して小窩裂溝シーラントを組み合わせる。
- イ．シーラント後は歯みがきや食生活管理が永久に不要になる。
- ウ．小窩裂溝は歯ブラシだけで必ず完全清掃できる。
- エ．フッ化物とシーラントは併用できない。

答え・解説 正答：ア

- ア：高リスク小窩裂溝にはシーラント、歯面全体にはフッ化物等を組み合わせる。
- イ：他の予防管理も必要である。
- ウ：毛先が届きにくい。
- エ：併用できる。

総合解説：高リスク小窩裂溝にはシーラント、歯面全体にはフッ化物等を組み合わせる。予防法をリスク部位に応じて組み合わせる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0121 疫学・地域保健・制度 > 疫学・歯科保健統計 | 難易度：基礎

ある時点で集団のうち歯周病を有している人の割合を示す指標はどれか。

- ア．罹患（incidence）
- イ．致命率
- ウ．出生率
- エ．有病割合（prevalence）

答え・解説 正答：エ

ア：罹患は一定期間中に新たに発生した症例を捉える。
イ：特定疾患患者のうち死亡した割合を表す。
ウ：出生頻度を表す人口動態指標である。
エ：有病割合はある時点または期間に存在する既存症例の割合である。

総合解説：有病割合はある時点または期間に存在する既存症例の割合である。有病は現在の疾病負担、罹患は新規発生を表す。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0122 疫学・地域保健・制度 > 疫学・歯科保健統計 | 難易度：基礎

一定期間に新たに発生したう蝕患者の頻度を評価するときを中心となる指標はどれか。

- ア．罹患（incidence）
- イ．有病割合だけ
- ウ．平均現在歯数だけ
- エ．DMFTのF成分だけ

答え・解説 正答：ア

ア：罹患は一定期間の疾病の新規発生を表す。
イ：既存症例を含み新規発生そのものではない。
ウ：新規発症頻度ではない。
エ：Fは処置歯で新規発症頻度ではない。

総合解説：罹患は一定期間の疾病の新規発生を表す。新規発生を評価するには時間軸が必要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0123 疫学・地域保健・制度 > 疫学・歯科保健統計 | 難易度：基礎

横断研究の特徴として最も適切なものはどれか。

- ア．ある時点で曝露と健康状態を同時に測定し、有病状況の把握などに用いる。
- イ．曝露群と非曝露群を長期間追跡する。
- ウ．疾病群と対照群から過去の曝露を比較する。
- エ．研究者が必ず介入を割り付ける。

答え・解説 正答：ア

- ア：横断研究は一時点の曝露・疾病を観察し、有病割合の把握に適する。
- イ：コホート研究の特徴である。
- ウ：症例対照研究の特徴である。
- エ：横断研究は通常観察研究である。

総合解説：横断研究は一時点の曝露・疾病を観察し、有病割合の把握に適する。時間的前後関係の判断には限界がある。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0124 疫学・地域保健・制度 > 疫学・歯科保健統計 | 難易度：標準

喫煙者と非喫煙者を登録し、その後数年間追跡して歯周病の新規発症を比較する研究はどれか。

- ア．コホート研究
- イ．症例対照研究
- ウ．横断研究
- エ．症例報告

答え・解説 正答：ア

- ア：コホート研究では曝露状況を基準に集団を追跡し、疾病発生を比較する。
- イ：疾病の有無で対象を選び過去曝露を比較する。
- ウ：一時点の測定が中心である。
- エ：単一または少数例の記述であり群間追跡比較ではない。

総合解説：コホート研究では曝露状況を基準に集団を追跡し、疾病発生を比較する。相対危険を直接計算しやすい。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0125 疫学・地域保健・制度 > 疫学・歯科保健統計 | 難易度：標準

重度歯周炎患者と歯周炎のない対照者を集め、過去の喫煙歴を比較する研究はどれか。

- ア．コホート研究
- イ．無作為化比較試験
- ウ．症例対照研究
- エ．横断研究

答え・解説 正答：ウ

- ア：曝露別の追跡ではない。
- イ：喫煙を割り付ける研究ではない。
- ウ：症例対照研究は症例群と対照群で過去の曝露頻度を比較する。
- エ：疾病の有無で選び過去曝露を比較する設計とは異なる。

総合解説：症例対照研究は症例群と対照群で過去の曝露頻度を比較する。関連指標としてオッズ比を用いることが多い。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0126 疫学・地域保健・制度 > 疫学・歯科保健統計 | 難易度：標準

コホート研究で曝露群の罹患リスクが20%、非曝露群が10%であった。相対危険はどれか。

- ア．0.5（非曝露群リスク÷曝露群リスクで計算した値）
- イ．2.0（曝露群リスク÷非曝露群リスクで計算した値）
- ウ．10.0（リスク差10ポイントを比と混同した値）
- エ．30.0（両群のリスクを加算した値）

答え・解説 正答：イ

- ア：非曝露群÷曝露群の計算である。
- イ：相対危険は曝露群リスク÷非曝露群リスクなので $0.20 \div 0.10 = 2.0$ である。
- ウ：リスク差10ポイントを比と混同している。
- エ：両群の割合を加算する指標ではない。

総合解説：相対危険は曝露群リスク÷非曝露群リスクなので $0.20 \div 0.10 = 2.0$ である。RR>1は曝露群で発生が多い方向を示す。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0127 疫学・地域保健・制度 > 疫学・歯科保健統計 | 難易度：標準

スクリーニング検査の感度の説明として正しいのはどれか。

- ア．実際に疾病がある人のうち、検査で陽性と判定できる割合
- イ．疾病がない人のうち陰性となる割合
- ウ．陽性者のうち疾病がある割合
- エ．全検査者のうち陰性者の割合

答え・解説 正答：ア

ア：感度は真の患者を陽性として拾い上げる能力を表す。
イ：特異度である。
ウ：陽性的中率である。
エ：感度の定義ではない。

総合解説：感度は真の患者を陽性として拾い上げる能力を表す。見逃しを減らしたい場面では高感度が重要となる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0128 疫学・地域保健・制度 > 疫学・歯科保健統計 | 難易度：標準

歯周病スクリーニングで「病気のない人を誤って陽性ににくい性能」を評価したい。この性能を直接表す説明はどれか。

- ア．疾病がある人のうち陽性となる割合
- イ．検査陽性者のうち疾病がある割合
- ウ．一定期間の新規患者数の割合
- エ．実際に疾病がない人のうち、検査で陰性と判定できる割合

答え・解説 正答：エ

ア：感度である。
イ：陽性的中率である。
ウ：罹患に関する指標である。
エ：特異度は疾病のない人を陰性と正しく分類する能力である。

総合解説：特異度は疾病のない人を陰性と正しく分類する能力である。感度と特異度を混同しない。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0129 疫学・地域保健・制度 > 疫学・歯科保健統計 | 難易度：応用

永久歯のDMFT指数に含まれる歯の組合せとして正しいのはどれか。

- ア．健全歯だけを合計する。
- イ．歯周ポケットの深さだけを合計する。
- ウ．未処置歯（D）、う蝕による喪失歯（M）、う蝕処置歯（F）
- エ．乳歯の現在歯数だけを合計する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：う蝕経験を表す指標である。
- イ：歯周状態の指標ではない。
- ウ：DMFTは永久歯のう蝕経験をD・M・Fの歯数で表す代表的指標である。
- エ：永久歯DMFTの定義ではない。

総合解説：DMFTは永久歯のう蝕経験をD・M・Fの歯数で表す代表的指標である。処置済みのFも過去のう蝕経験として数える。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0130 疫学・地域保健・制度 > 疫学・歯科保健統計 | 難易度：応用

厚生労働省の令和6年歯科疾患実態調査の結果として正しいのはどれか。

- ア．8020達成者は10％未満、受診割合は20％未満であった。
- イ．両者とも100％であった。
- ウ．8020達成者は61.5％、過去1年間の歯科検診（健診）受診割合は63.8％であった。
- エ．8020達成者51.6％、受診割合58.0％であった。

答え・解説 正答：ウ

- ア：公表値と大きく異なる。
- イ：公表値は100％ではない。
- ウ：令和6年調査では8020達成者61.5％、過去1年間の歯科検診受診割合63.8％と公表された。
- エ：これは前回令和4年調査の参考値である。

総合解説：令和6年調査では8020達成者61.5％、過去1年間の歯科検診受診割合63.8％と公表された。統計問題では調査年を明記し旧データと混在させない。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0131 疫学・地域保健・制度 > ライフステージ・地域歯科保健 | 難易度：基礎

歯・口腔の健康づくりプランにおけるライフコースアプローチの考え方として最も適切なのはどれか。

- ア．高齢期だけを対象とする。
- イ．全員に同一施策だけを行う。
- ウ．個人努力だけを見て社会環境を考えない。
- エ．各ライフステージの対策に加え、以前の生活習慣や社会環境が後の口腔健康に与える影響も考慮する。

答え・解説 正答：エ

- ア：生涯の連続性を考える。
- イ：ライフステージ特性への対応が必要である。
- ウ：健康格差や社会環境も重要である。
- エ：ライフコースアプローチは過去から積み重なる生活・環境要因を踏まえて生涯の健康を捉える。

総合解説：ライフコースアプローチは過去から積み重なる生活・環境要因を踏まえて生涯の健康を捉える。 ライフステージとライフコースを区別する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0132 疫学・地域保健・制度 > ライフステージ・地域歯科保健 | 難易度：基礎

母子保健法に基づき、1歳6か月児および3歳児の健康診査を行う主体はどれか。

- ア．市町村
- イ．国が全例を直接実施する。
- ウ．都道府県だけが実施する。
- エ．学校だけが実施する。

答え・解説 正答：ア

- ア：母子保健法は市町村に1歳6か月児・3歳児健康診査の実施を規定している。
- イ：法定健診の実施主体は市町村である。
- ウ：市町村が実施する。
- エ：乳幼児健診は学校保健制度ではない。

総合解説：母子保健法は市町村に1歳6か月児・3歳児健康診査の実施を規定している。 実施主体と対象年齢をセットで覚える。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0133 疫学・地域保健・制度 > ライフステージ・地域歯科保健 | 難易度：基礎

母子保健法施行規則に基づく1歳6か月児・3歳児健康診査の項目に含まれるのはどれか。

- ア．歯及び口腔の疾病及び異常の有無
- イ．自動車運転免許の適性だけ
- ウ．成人の介護保険要介護度だけ
- エ．職場の有機溶剤曝露だけ

答え・解説 正答：ア

- ア：施行規則では歯及び口腔の疾病・異常の有無が健診項目に含まれる。
- イ：乳幼児健診の項目ではない。
- ウ：乳幼児健診の項目ではない。
- エ：乳幼児健診の項目ではない。

総合解説：施行規則では歯及び口腔の疾病・異常の有無が健診項目に含まれる。乳幼児期の歯科保健課題を早期把握する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0134 疫学・地域保健・制度 > ライフステージ・地域歯科保健 | 難易度：標準

母子保健法上の妊産婦の健康診査について正しいのはどれか。

- ア．1歳6か月児健診と全く同じ法定時期である。
- イ．市町村は妊産婦健診を行うことが禁止される。
- ウ．母子保健と歯科保健は一切関係しない。
- エ．市町村は必要に応じて妊産婦に健康診査を行い、または受診を勧奨する。

答え・解説 正答：エ

- ア：規定が異なる。
- イ：必要に応じた実施・勧奨が規定される。
- ウ：妊産婦期の歯科保健も母子保健事業で扱われる。
- エ：母子保健法では妊産婦等への必要に応じた健康診査・受診勧奨を規定する。

総合解説：母子保健法では妊産婦等への必要に応じた健康診査・受診勧奨を規定する。法定必須の乳幼児健診と区別する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0135 疫学・地域保健・制度 > ライフステージ・地域歯科保健 | 難易度：標準

学校における歯・口の健康診断の位置づけとして最も適切なのはどれか。

- ア．学校健診だけで全ての歯科疾患を確定診断し治療する。
- イ．歯・口の状態は検査対象外である。
- ウ．健診結果を本人の健康管理へ利用してはならない。
- エ．健康課題をスクリーニングし、その後の健康教育や必要な受診につなげる。

答え・解説 正答：エ

- ア：健診はスクリーニングであり診療そのものではない。
- イ：学校健康診断の対象である。
- ウ：健康教育・健康管理に活用する。
- エ：学校歯科健診は歯・口の健康課題を把握し事後措置へつなげるスクリーニングである。

総合解説：学校歯科健診は歯・口の健康課題を把握し事後措置へつなげるスクリーニングである。健診と確定診断を混同しない。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0136 疫学・地域保健・制度 > ライフステージ・地域歯科保健 | 難易度：標準

学校歯科保健の考え方として適切なのはどれか。

- ア．健診結果は本人の行動改善に利用しない。
- イ．健診結果を児童生徒の健康教育・健康管理に生かし、自律的な口腔健康づくりにつなげる。
- ウ．う蝕があっても事後措置は不要である。
- エ．卒業後の自己管理は目標外である。

答え・解説 正答：イ

- ア：結果を健康教育へ生かす。
- イ：学校歯科保健は健診だけでなく健康教育の機能も持つ。
- ウ：必要な受診勧奨等を行う。
- エ：生涯の自己管理につながる事が重要である。

総合解説：学校歯科保健は健診だけでなく健康教育の機能も持つ。集団健診結果を個人の健康行動へつなげる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0137 疫学・地域保健・制度 > ライフステージ・地域歯科保健 | 難易度：標準

後期高齢者を対象とした歯科健診で口腔機能として評価される組合せはどれか。

- ア．視力・色覚・聴力だけ
- イ．腎機能・肝機能・肺活量だけ
- ウ．骨密度・身長だけ
- エ．咀嚼機能・舌口唇機能・嚥下機能

答え・解説 正答：エ

- ア：口腔機能評価ではない。
- イ：歯科健診の口腔機能項目ではない。
- ウ：主要な口腔機能項目ではない。
- エ：高齢者歯科健診では咀嚼、舌口唇、嚥下など機能面の評価が重要である。

総合解説：高齢者歯科健診では咀嚼、舌口唇、嚥下など機能面の評価が重要である。 高齢期は口腔機能低下の早期把握も重視する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0138 疫学・地域保健・制度 > ライフステージ・地域歯科保健 | 難易度：標準

歯科口腔保健の推進に関する法律の趣旨に合う対応はどれか。

- ア．受診にくい者は施策対象外とする。
- イ．障害者など定期的な歯科検診を受けることが困難な者にも必要な歯科口腔保健施策を講じる。
- ウ．障害の有無に関係なく支援方法を一切調整しない。
- エ．医療・福祉・教育との連携を避ける。

答え・解説 正答：イ

- ア：受診困難者への施策も重要である。
- イ：受診困難者を含む全ての人が必要な予防・健診・ケアへアクセスできる体制が重要である。
- ウ：状態に応じた対応が必要である。
- エ：関連施策との有機的連携が基本理念である。

総合解説：受診困難者を含む全ての人が必要な予防・健診・ケアへアクセスできる体制が重要である。 個人努力だけでなくアクセス環境を整える。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0139 疫学・地域保健・制度 > ライフステージ・地域歯科保健 | 難易度：応用

市町村間で3歳児う蝕有病状況に大きな差がみられた。地域歯科保健として最も適切な考え方はどれか。

- ア．差は全て個人の努力不足だけで説明する。
- イ．個人指導だけでなく、地域の社会環境や予防サービスへのアクセスも分析して対策する。
- ウ．地域差があっても統計を使わない。
- エ．高リスク地域ほど予防サービスを減らす。

答え・解説 正答：イ

- ア：社会・生活環境も関与する。
- イ：地域のう蝕格差には社会環境や予防サービスへのアクセスも関与し得る。
- ウ：地域診断には統計が必要である。
- エ：必要性に応じた支援が必要である。

総合解説：地域のう蝕格差には社会環境や予防サービスへのアクセスも関与し得る。健康格差の縮小は現在の政策上重要である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0140 疫学・地域保健・制度 > ライフステージ・地域歯科保健 | 難易度：応用

地域で生涯を通じた歯科口腔保健を推進する施策として最も適切なのはどれか。

- ア．小児う蝕だけ扱い成人・高齢者を除外する。
- イ．乳幼児・学齢期・成人・高齢者それぞれの課題に応じ、健診、予防、保健指導、医療・福祉連携を切れ目なく組み合わせる。
- ウ．健診だけ実施し受診勧奨や指導を行わない。
- エ．地域統計や住民ニーズを考慮しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：各ライフステージの課題を扱う。
- イ：地域歯科保健では各ライフステージの課題を把握し、切れ目ない施策を構築する。
- ウ：結果を予防・受診へつなげる。
- エ：地域診断に基づく施策が重要である。

総合解説：地域歯科保健では各ライフステージの課題を把握し、切れ目ない施策を構築する。生涯を通じた歯科口腔保健が基本方向である。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0141 疫学・地域保健・制度 > 保健医療福祉制度・環境と健康 | 難易度：基礎

歯科口腔保健の推進に関する法律の目的として最も適切なものはどれか。

- ア．歯科医療を全て自由診療に限定する。
- イ．歯科疾患の予防等による口腔の健康保持に関する施策を総合的に推進し、国民保健の向上に寄与する。
- ウ．歯科疾患の予防を行政施策から除外する。
- エ．高齢者だけを唯一の対象とする。

答え・解説 正答：イ

- ア：法律の目的ではない。
- イ：同法は歯科口腔保健施策の総合的推進により国民保健の向上を図る。
- ウ：予防等を含む施策を推進する。
- エ：生涯を通じた歯科口腔保健が理念である。

総合解説：同法は歯科口腔保健施策の総合的推進により国民保健の向上を図る。目的条文を正確に理解する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0142 疫学・地域保健・制度 > 保健医療福祉制度・環境と健康 | 難易度：基礎

歯科口腔保健の推進に関する法律の基本理念に含まれるのはどれか。

- ア．成人期以外を対象外とする。
- イ．乳幼児期から高齢期まで各時期の口腔状態・歯科疾患の特性に応じて施策を推進する。
- ウ．医療・福祉・教育との連携を禁止する。
- エ．早期発見・早期治療を推進しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：生涯を対象とする。
- イ：基本理念には生涯予防、早期発見・治療、ライフステージ対応、関連分野との連携が含まれる。
- ウ：有機的連携が基本理念である。
- エ：早期発見・早期治療促進が含まれる。

総合解説：基本理念には生涯予防、早期発見・治療、ライフステージ対応、関連分野との連携が含まれる。目的と基本理念を分けて整理する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0143 疫学・地域保健・制度 > 保健医療福祉制度・環境と健康 | 難易度：基礎

歯科口腔保健の推進に関する基本的事項を定める主体はどれか。

- ア．各歯科診療所の管理者だけ
- イ．学校長だけ
- ウ．厚生労働大臣
- エ．個々の患者だけ

答え・解説 正答：ウ

- ア：法定策定主体ではない。
- イ：国の基本的事項を定める主体ではない。
- ウ：法律により厚生労働大臣が施策の総合的実施のための方針・目標等を定める。
- エ：法定策定主体ではない。

総合解説：法律により厚生労働大臣が施策の総合的実施のための方針・目標等を定める。国と地方公共団体の役割を区別する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0144 疫学・地域保健・制度 > 保健医療福祉制度・環境と健康 | 難易度：標準

歯科口腔保健の推進に関する法律に基づく都道府県の対応として正しいのはどれか。

- ア．国と無関係に全国一律の同一計画を作る。
- イ．都道府県は歯科口腔保健施策に関与できない。
- ウ．他の保健医療計画と調和させてはならない。
- エ．国の基本的事項を勘案し、地域の状況に応じた基本的事項を定めるよう努める。

答え・解説 正答：エ

- ア：地域の状況に応じる。
- イ：法律上役割がある。
- ウ：関連計画との調和が求められる。
- エ：都道府県は国の基本的事項を踏まえ、地域特性に応じた基本的事項を定めるよう努める。

総合解説：都道府県は国の基本的事項を踏まえ、地域特性に応じた基本的事項を定めるよう努める。国の方針と地域診断を両方踏まえる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0145 疫学・地域保健・制度 > 保健医療福祉制度・環境と健康 | 難易度：標準

法律上、口腔保健支援センターを設けることができる主体として正しいのはどれか。

- ア．全ての民間企業だけ
- イ．小学校だけ
- ウ．歯科材料メーカーだけ
- エ．都道府県、保健所を設置する市、特別区

答え・解説 正答：エ

- ア：法定設置主体ではない。
- イ：法定設置主体ではない。
- ウ：法定設置主体ではない。
- エ：法律は都道府県、保健所設置市、特別区が口腔保健支援センターを設けられるとする。

総合解説：法律は都道府県、保健所設置市、特別区が口腔保健支援センターを設けられるとする。設置主体を正確に整理する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0146 疫学・地域保健・制度 > 保健医療福祉制度・環境と健康 | 難易度：標準

歯・口腔の健康づくりプランの計画期間として正しいのはどれか。

- ア．令和6年度だけ
- イ．平成24年度から平成33年度まで
- ウ．令和6年度から令和17年度まで
- エ．令和18年度から令和29年度まで

答え・解説 正答：ウ

- ア：12年間の計画である。
- イ：第二次の期間ではない。
- ウ：第二次基本的事項は令和6年度から令和17年度までの12年間である。
- エ：現行期間ではない。

総合解説：第二次基本的事項は令和6年度から令和17年度までの12年間である。現行計画期間を旧計画と混同しない。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0147 疫学・地域保健・制度 > 保健医療福祉制度・環境と健康 | 難易度：標準

歯・口腔の健康づくりプランと健康日本21（第三次）の関係として最も適切なのはどれか。

- ア．歯科口腔保健は全身健康政策から完全に独立する。
- イ．健康日本21は歯科口腔保健を扱わない。
- ウ．計画期間や目標の整合を図り、健康寿命や健康格差など幅広い健康づくりと連携する。
- エ．二つの計画は期間を重ねさせない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：関連計画との整合が図られる。
- イ：口腔健康も健康づくり政策と連携する。
- ウ：現行歯科口腔保健政策は健康日本21（第三次）等と連携・整合して進められる。
- エ：期間の整合が図られる。

総合解説：現行歯科口腔保健政策は健康日本21（第三次）等と連携・整合して進められる。口腔健康を全身健康・健康格差と統合して考える。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0148 疫学・地域保健・制度 > 保健医療福祉制度・環境と健康 | 難易度：標準

地域保健制度について正しいのはどれか。

- ア．市町村保健センターは国だけが設置できる。
- イ．保健所は広域的・専門的・技術的機能を担い、市町村保健センターは住民に身近な健康相談・保健指導・健康診査等を行う。
- ウ．保健所は健康危機管理に関与しない。
- エ．両者は医療・福祉との連携を行ってはいらない。

答え・解説 正答：イ

- ア：市町村の身近な保健拠点である。
- イ：保健所は専門的・広域的拠点、市町村保健センターは住民に身近な保健サービス拠点である。
- ウ：保健所は健康危機管理でも重要である。
- エ：地域保健では連携が重視される。

総合解説：保健所は専門的・広域的拠点、市町村保健センターは住民に身近な保健サービス拠点である。設置主体だけでなく機能も区別する。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0149 疫学・地域保健・制度 > 保健医療福祉制度・環境と健康 | 難易度：応用

口腔健康格差を縮小するための環境への働きかけとして最も適切なのはどれか。

- ア．予防情報や歯科健診・フッ化物応用などにアクセスしやすい地域環境を整備する。
- イ．疾病を全て自己責任として地域資源を減らす。
- ウ．高リスク地域ほど予防サービスを制限する。
- エ．地域統計を収集せず全国平均だけで判断する。

答え・解説 正答：ア

- ア：健康行動は個人要因だけでなく社会・生活環境に影響される。
- イ：社会環境も健康に影響する。
- ウ：アクセス確保が重要である。
- エ：地域データの分析が必要である。

総合解説：健康行動は個人要因だけでなく社会・生活環境に影響される。 個人支援と環境整備を組み合わせる。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05

0150 疫学・地域保健・制度 > 保健医療福祉制度・環境と健康 | 難易度：応用

高齢者の口腔機能低下、障害者の歯科受診困難、乳幼児う蝕の地域格差が同時に課題となっている。行政の対応として最も適切なのはどれか。

- ア．保健・医療・福祉・教育等の関係機関が地域データを共有し、対象ごとの支援と地域環境整備を組み合わせる。
- イ．各課題を完全に別々に扱い連携を避ける。
- ウ．高齢者だけに資源を集中し他を恒久除外する。
- エ．地域統計を確認せず全国同一施策だけを行う。

答え・解説 正答：ア

- ア：地域歯科保健では疫学データに基づき、多部門連携で複数課題へ対応する。
- イ：関連施策の有機的連携が重要である。
- ウ：生涯を通じた施策が必要である。
- エ：地域特性を踏まえる必要がある。

総合解説：地域歯科保健では疫学データに基づき、多部門連携で複数課題へ対応する。 制度・疫学・地域保健を統合して考える。

対象：第36回歯科衛生士国家試験 / 基準日 2026-09-05